



伊勢參宮名所圖會
 五上



伊勢參宮名所圖會卷之五

目錄

館 <small>くわん</small>	稱宜宿館 <small>ねぎのしゆくくわん</small>	中宮内 <small>ちゆうぐわんない</small>	一鳥居 <small>いちとりか</small>	手水場 <small>てすゐば</small>
後所 <small>ごしよ</small>	巖社遙拜所 <small>いわのやしろのうらやま</small>	二鳥居 <small>ふたとりか</small>	荒祭宮遙拜所 <small>あらいまつみやのうらやま</small>	廳舍 <small>てうしや</small>
一殿直會殿 <small>いつてんぢくわい</small>	忌火屋殿 <small>いひやどの</small>	外宮遙拜所 <small>げぐわんうらやま</small>	冠本鳥居 <small>かむきのとりか</small>	外幣殿 <small>げへい</small>
御輿宿 <small>みこしやど</small>	玉串所 <small>たまぐし</small>	石壺 <small>いし</small>	第三鳥居 <small>だいさんとりか</small>	
第四御門 <small>よんごのり</small>	脅王候殿 <small>おしおうこう</small>			
八重 <small>やえ</small>	玉串御門 <small>たまぐし</small>			
八重 <small>やえ</small>	蕃垣御門 <small>ばんげん</small>			
内宮正殿 <small>ないぐわんせい</small>	瑞垣御門 <small>みづきげん</small>			
相殿 <small>あいに</small>	瑞珠盟約 <small>みづきたまひやく</small>			
心 <small>こころ</small>	内宮訓儀 <small>ないぐわんくんぎ</small>			
百枝 <small>ももえ</small>	東宝殿 <small>とうほう</small>	宿衛殿 <small>しゆくゑい</small>	八十末社 <small>はちじまつ</small>	神路山 <small>かみぢやま</small>
石窟 <small>いしくつ</small>	西宝殿 <small>さいほう</small>	天津神社 <small>あまつのじんじや</small>	國津神社 <small>くにづのじんじや</small>	
幽居 <small>ゆうき</small>	西鳥居 <small>さいとりか</small>			
奉宮古殿 <small>ほうぐわんこ</small>	興玉拜所 <small>かむたまのへいしよ</small>	石壇 <small>いしだん</small>	御稻御倉 <small>みいねのぐら</small>	



一 元社 裏河門 小鳥居
小玉垣河門 小端垣河門

御遷宮 御池

河原社 由貴殿

子良殿 又十鈴川橋

末社 八百會遙拜所

川原後所 落合川原

高倉殿 山神社

沖賢小屋 一の瀬

長尾 組板石 鮎面石

瀧祭窟 家立茶屋

宮川 鷄鳴石

伊雜宮 大歳宮 後田彦社

荒祭宮 同宮前東西遙拜所

川島神社遙拜所 樓宮

酒殿 朝庭遙拜所

僧尼拜所 鳳宮

瀧祭窟 瀧宮並宮

河合社 沖殿

石井神社 荒本回民社

三方石 松坂

合坂 後田彦森

甌石 鼎石

惠利原 一宇回岩 笹原岩 弘法茶屋 天狗岩

楠部嶺

朝熊嶽 若舟 弁天 勝峯山金剛證寺 義和佩刀 文殊堂 求聞持堂 極樂橋

德三社 子安地蔵 阿弥陀堂 二王門 連珠橋 連珠池 雨宝堂 子宮

明里水 手向地蔵 經ヶ峯 龍池 寺院 芭蕉塚 稻荷社 舍利塔

用山堂 东岳和尚像 朝熊村 永松庵 秋田殿之女実妻墓 後原右馬之女墓

七社中 小朝熊社 朝熊森 榎本里 鏡宮 破石

益川村 藤海社 三津浦 三津村 五峯山密巖寺

山回原 西郷法師 隼人古墳 三津浦 三津村 伊勢三郎宅地

濱蔭 鷺島 龜ヶ巻 姫小松 出村氏社 音岳山

立石 堅回社遙拜所 二新茶屋 尾瀬

志支松殿 河寄 二新茶屋 箕曲氏社 天神社

常樹子 通村 箕曲氏社 天神社 津社村

御食社 三枚橋村 大津社 小林社 御役所

大湊 志支松殿 八幡宮 今一色村 高城濱

お城濱

清瀨

御塩殿

立石橋

二見浦

興玉石

江村

湖青山大江寺

江神社

松下

福民社

舟絵松

嶼島巡覽

許母利神社

阿波良支所

阿波良支所

小浜

由曾津

宿浦

宿浦

○附録目録

神衣系

月次祭

神嘗祭

凡日行

祈年系

山口系

幣帛使

笠雲系神祇

神寶七種

御装束

御舩代

荒瀬和魂

御遷宮

系主家

神宮家

叙爵家

異姓家

御巫御内人

御首他内人

奏事始

御師

守武神主御詣

阿漕浦再考

伊勢國号

鯰

田禄

新名所歌合

三角拍

おうかき

御頭神事

退遣

石戦

多寄三方

主従

死葬倭股

穢人

相殿別宮

式内式外社宮の解

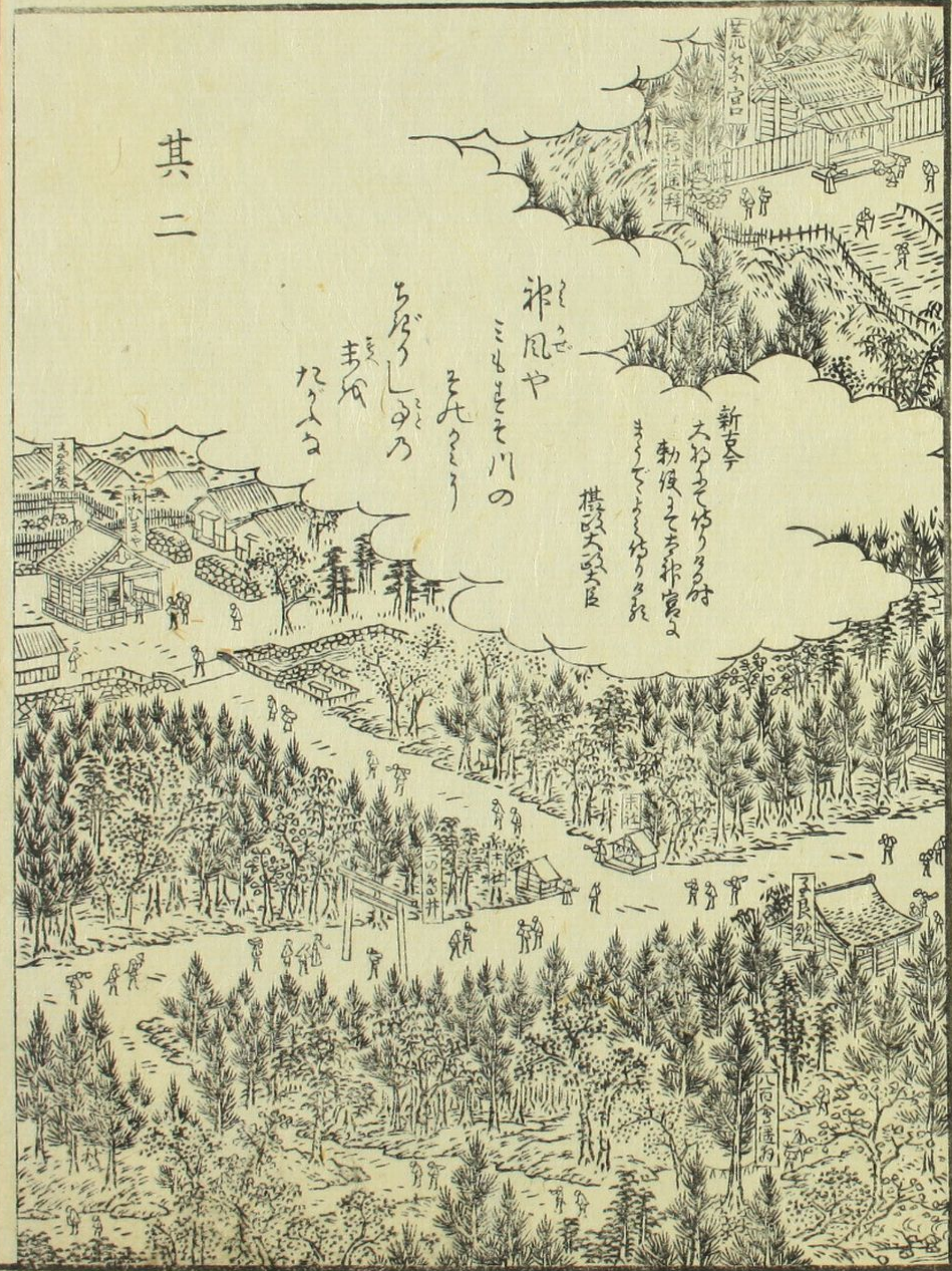
疾燈

園傍宮

御政印

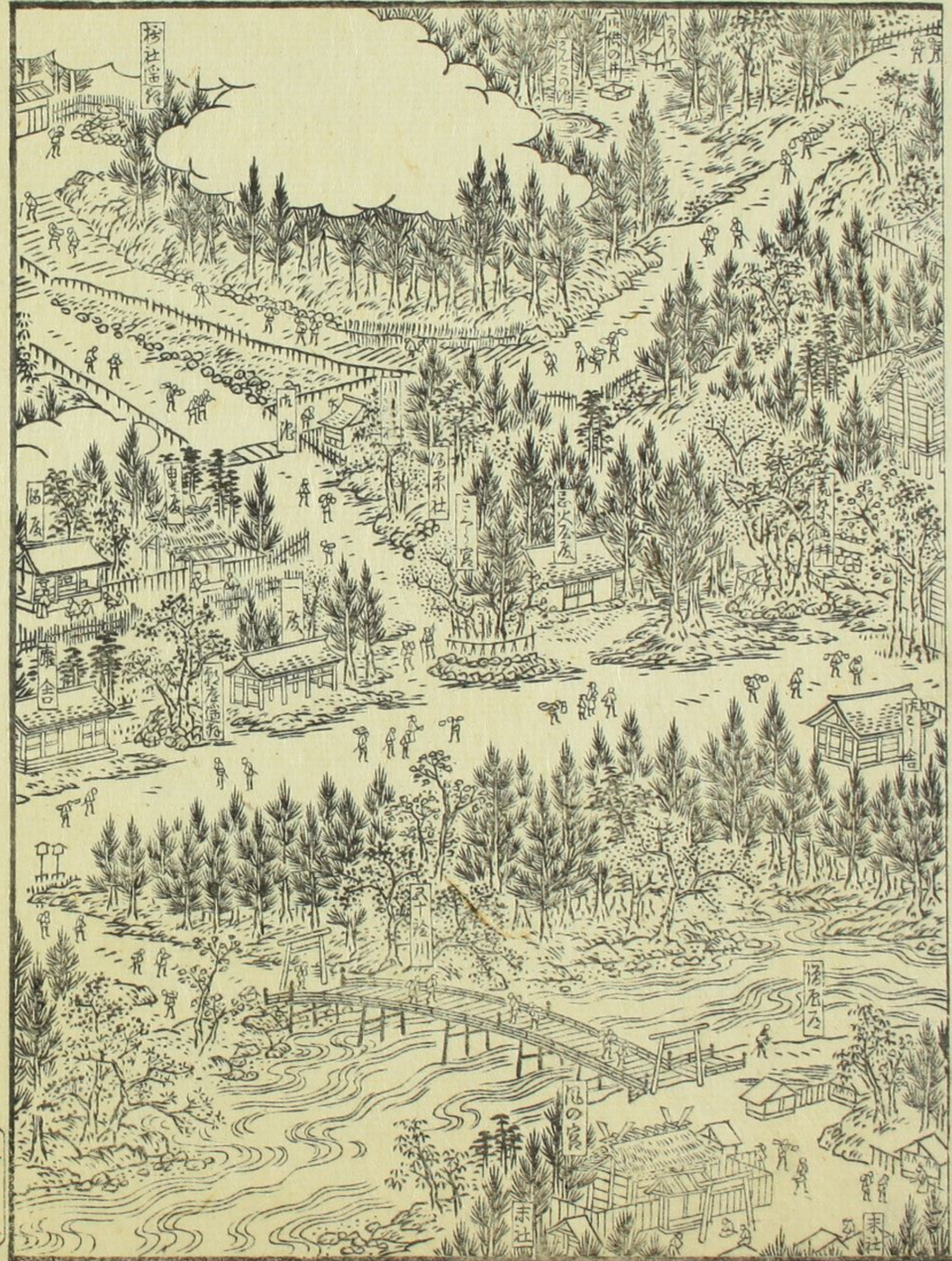
長鯰

佛法

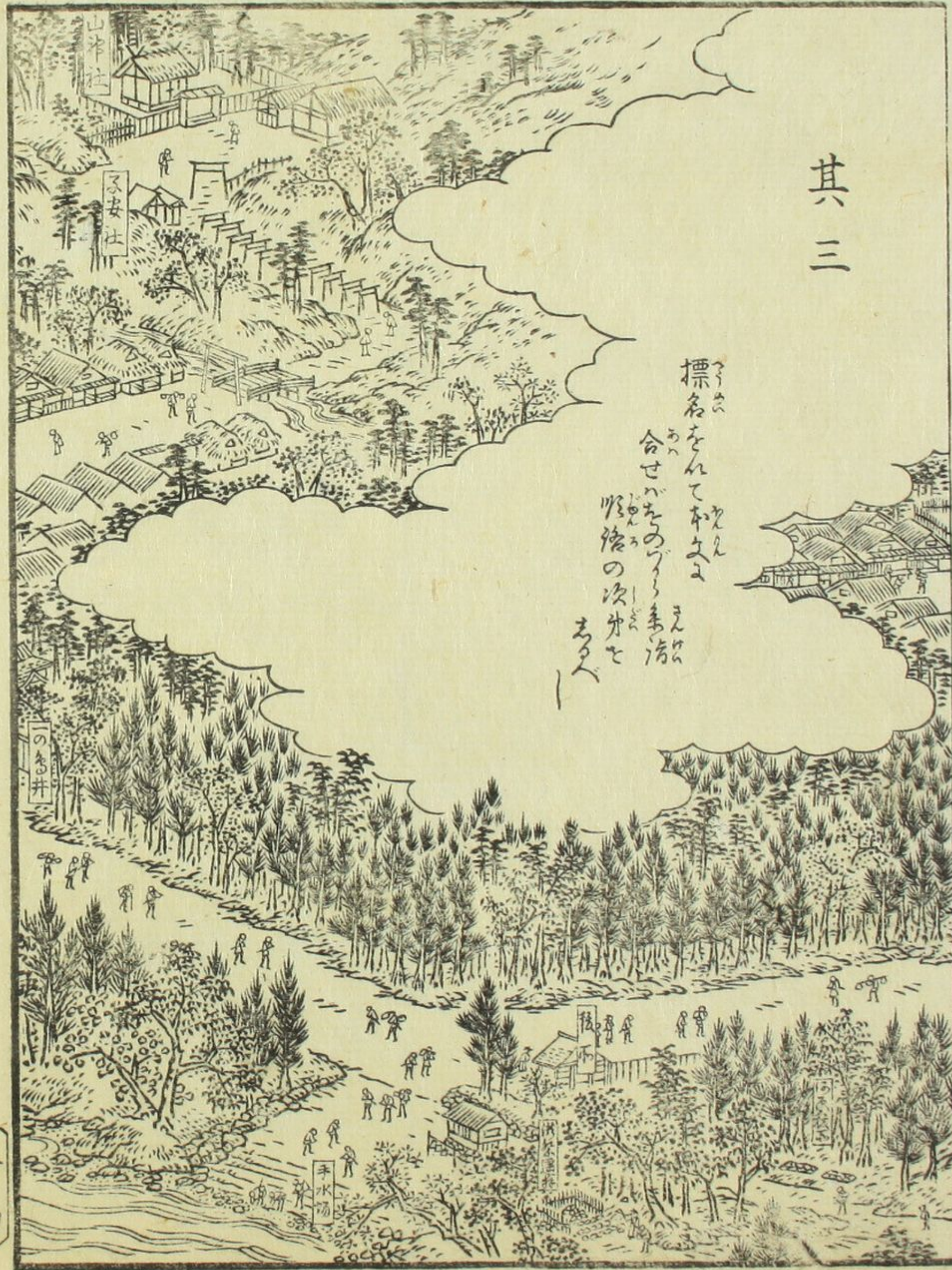
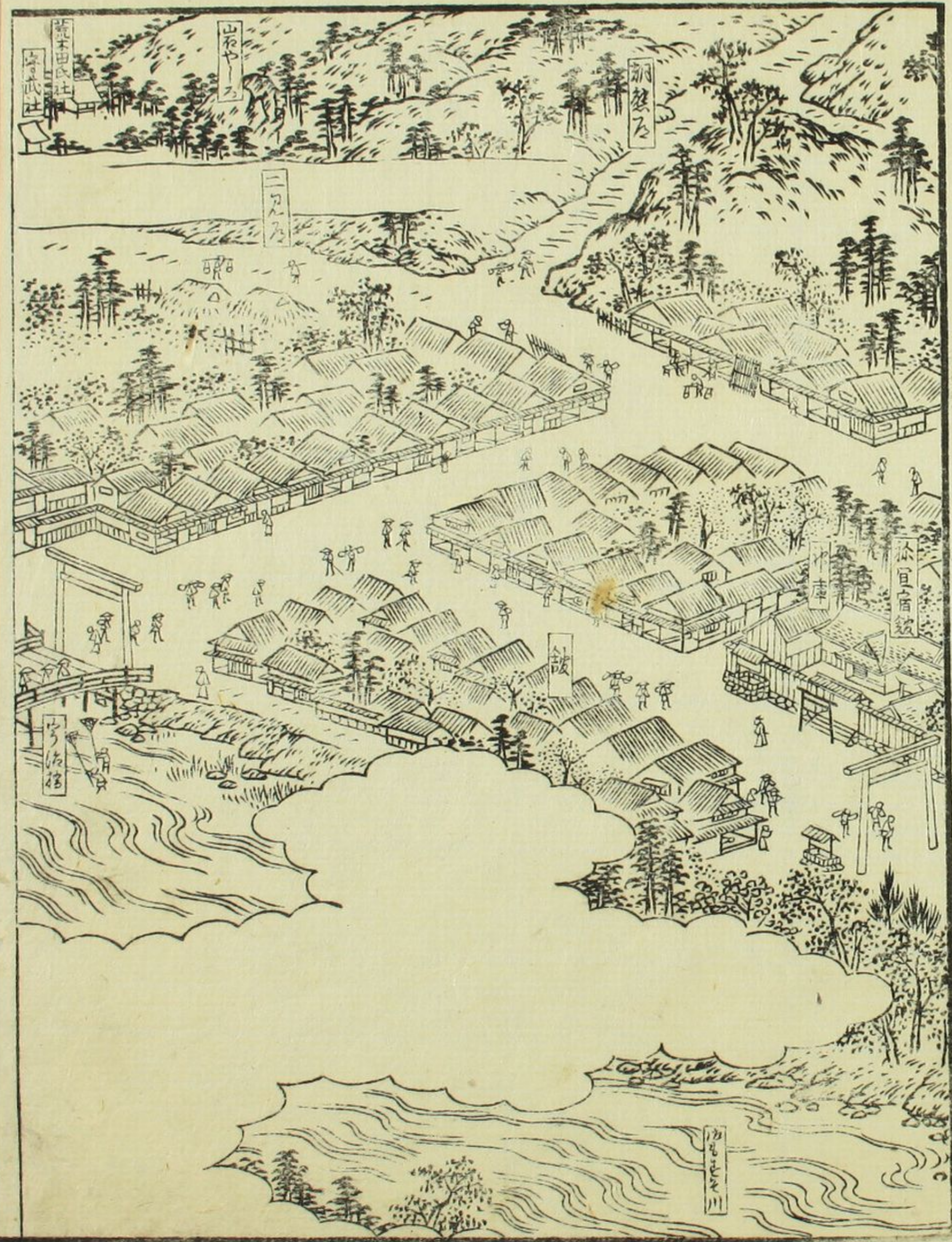


其二

新宮
 大ねそてゆりる付
 物候よそち新宮よ
 まてよゆりる付
 横江大宮
 新宮
 大ねそてゆりる付
 物候よそち新宮よ
 まてよゆりる付
 横江大宮



五ノ三



其三

標名をりて本文よ
 合せはをのりて
 順治の次分と
 ちん



瑞珠盟約

天照大神の尊素盞烏尊の生倭勇
 懼うして甚なる之れハ宇宙ハ若
 うして殊に之れハ二神の勅よ
 うに根の國へ遊やう給ふ尊を
 砂の島高天原の神の君又見へ
 後永く退くを云々雲霧を踏まう
 て天又清り給ひて又盟約を云々
 古神古尊の親を祖齋て同心姫湍津姫
 市杵姫の三女と生し給ふ尊古神の神統
 の禮とて之れ正哉吾勝天徳日天
 彦根治津彦徳神櫛樟日の五男を
 生したまふ
 是天地の元化より今
 人の世に於ての事なり



崇^{あか}中^{ちゆう}又^{また}兩^{りゆう}宮^{きゆう}を天神地祇^{てんじんぢぎ}と一^{ひと}則^{すなは}天地^{てんち}の父母^{ふぼ}と合せ祀奉^{まつりまつ}は似^にす
又^{また}云^い凡^{たゞ}て神代^{かみよ}の事^{こと}日本紀神代卷^{にほんきかみよまき}を以^{もつ}て證^{あかし}とるより外^{ほか}は猶^{なほ}
み事^{こと}々^々物^{もの}々^々と諸説^{しよせつ}紛^{まじ}りて人^{ひと}々の意^いを以^{もつ}て解^とき悉^{ことごと}く信^{しん}じり
に足^たらば今^{いま}より百億^{ひやくおく}萬^{まん}歲^{さい}の昔^{むかし}を論^{ろん}とせたりた人の睡^{ねむ}記^きて後^{のち}と語^ご
又^{また}等^と強^{しやう}て意^いを張^はり臂^ひを撐^{たか}めり笑^{わら}ふと堪^たらう 西^{せい}の教^{きやう}とて
何^{なに}の物^{もの}かまどうはまじりぬるもあつたを後^{のち}とらう
みせぬの事^{こと}

何^{なに}の本^{ほん}れ花^{はな}ともまじりぬるひ、那^な
此^{こゝ}意^いもて今^{いま}も尚^{なほ}此^{こゝ}又^{また}指^{さし}する遠^{とほ}海^{うみ}國^{くに}の心^{こゝろ}を同^{おな}じ實^{まこと}に何^{なに}のあ
かまはれもまじりどふ里^{さと}の海^{うみ}と成^なりて来^きるともいふかた實^{まこと}を捧^{たか}
ひもあはれ唯^{ただ}一向^{いひやう}又^{また}難^{がた}むとのこと言^いはる此^{こゝ}を以^{もつ}て思^{おも}ふ又^{また}親^{かや}の子^ことも
ひまも孝^{かう}子^しれ親^{かや}又^{また}仕^{つか}ふるも雪^{ゆき}中^{ちゆう}の筆^{ひつ}をりてむる心^{こゝろ}めは又^{また}里^{さと}のあ
あかかうともいふもいふ遠^{とほ}とせんや果^{はつ}人間^{にんげん}の實^{まこと}心^{こゝろ}に必^{かならず}教^{きやう}るを待^{まち}
知^しれものにあはれ不^ふ謂^ご性^{せい}若^{じやく}則^{すなは}神明^{しんめい}の事^{こと}せ給^{たま}ふと尊^{うやまつ}とるり利^りと

のりく推^{おし}べう^べに

○手力雄^{たぢゆう} 此^{こゝ}神^{かみ}の岩^{いわ}戸^と引^ひ開^{ひら}き給^{たま}ひ強^{かぢ}力の神^{かみ} 又^{また}或^{ある}説^{せつ}は日^ひ夕^{ゆふ}チカラといひ廻^{まわ}
祖^その系^{けい}は秋^{あき}葉^はと帝^{てい}一^{ひと}貫^{くわん}

○栲^く幡^{ばん}千^ち々^々姫^{ひめ}の神^{かみ}代^よ卷^{まき}下^{しも}云^い天^{あま}照^{てる}右^{みぎ}神^{かみ}の御^み子^こ天^{あま}忍^{しの}穂^ほ耳^{みみ}尊^{のみこと}の御^み妻^{つま}に
て高^{たか}皇^{みむすひ}産^う産^う要^い尊^{のみこと}の女^{むすめ} 或^{ある}説^{せつ}云^い栲^くの白^{しろ}本^{ほん}に刻^きて糸^{いと}の制^{せい}とる其^{その}系^{けい}を以^{もつ}て機^{はた}
糸^{いと}を以^{もつ}て衣^い衣^い又^{また}幡^{ばん}豊^{ゆたか}秋^{あき}津^つ姫^{ひめ}ともまじり相^{あひま}殿^{どの}の三^{さん}神^{かみ}田^で祖^そ又^{また}糸^{いと}本^{ほん}の月^{つき}と司^{つかさど}り給^{たま}ふ神^{かみ}と云^いと云^い

○御^み鎮^{ちん}座^ざの事^{こと} 日本紀^{にほんき}書^{しよ}云^い日^ひの神^{かみ}岩^{いわ}戸^とを以^{もつ}て出^いまはす御^み鏡^{かがみ}を以^{もつ}て其^{その}窟^{くわ}に投^なげ
入^いりて戸^とを以^{もつ}て小^こ殿^{どの}付^{つけ}り今^{いま}も尚^{なほ}存^{ぞん}在^{ざい}と此^{こゝ}即^{すなは}伊^い勢^{せい}又^{また}出^い示^し秘^ひ之^の大^{おほ}神^{かみ}也^{なり}云^い尚^{なほ}
神^{かみ}武^ぶ志^し尊^{のみこと}以^{もつ}て代^よ此^{こゝ}神^{かみ}鏡^{かがみ}日^ひ殿^{どの}也^{なり}とませ給^{たま}ひるが人^{ひと}皇^{みむすひ}十^{じゆ}代^{だい}崇^そ神^{かみ}天^{あま}皇^{みむすひ}の
御^み宇^う神^{かみ}威^い怒^どと給^{たま}ひ天^{あま}の香^か山^{やま}の荒^あ倉^{くら}を以^{もつ}て鏡^{かがみ}を以^{もつ}て其^{その}窟^{くわ}に温^ぬ明^{めい}殿^{どの}又^{また}
あがら中^{ちゆう}内^{ない}侍^し不^ふ室^{しつ}劔^{けん}と名^な付^{つけ}内^{ない}裏^{うら}又^{また}い神^{かみ}代^よの鏡^{かがみ}劔^{けん}崇^そ神^{かみ}天^{あま}皇^{みむすひ}六^む
年^{ねん}己^こ丑^う秋^{あき}九^く月^{げつ}又^{また}清^{せい}女^{めづ}を以^{もつ}て入^いり給^{たま}ひと附^つけたり大^{おほ}和^わ國^{くに}之^の邊^への邑^{むら}に付^{つけ}て破^{やぶ}城^{じやう}の神^{かみ}
籬^{かき}を以^{もつ}てつらきなる其^{その}後^{のち}大^{おほ}神^{かみ}の教^{きやう}よりて豊^{ゆたか}入^いり給^{たま}ひ大^{おほ}神^{かみ}を以^{もつ}て戴^{たい}たり
國^{くに}に又^{また}よき宮^{みや}不^ふを以^{もつ}て求^{もと}め給^{たま}ひ又^{また}年^{ねん}老^{らう}給^{たま}ひいよりて人^{ひと}皇^{みむすひ}十^{じゆ}代^{だい}垂^た仁^に天^{あま}皇^{みむすひ}

○手力雄^{たぢゆう} 此^{こゝ}神^{かみ}の岩^{いわ}戸^と引^ひ開^{ひら}き給^{たま}ひ強^{かぢ}力の神^{かみ} 又^{また}或^{ある}説^{せつ}は日^ひ夕^{ゆふ}チカラといひ廻^{まわ}
祖^その系^{けい}は秋^{あき}葉^はと帝^{てい}一^{ひと}貫^{くわん}

神女大倭姫命是みかよりて美和の御諸の宮より諸國順覽ある遷幸乃
を日登之 終は日御宇二十六丁巳十月甲子宇治郷又十餘川の邊りに
移りたり相殿より天恩屋根命を玉命まじりたり其後外宮御鎮
座の對此二神を外宮の西相殿に定め給ふ○正殿と雲の宮又十餘の宮
磯の宮とも朝日の宮ともなれ一説磯の宮に齊宮の宮と

神凡や初日の宮の宮より一秋のころなる世にありたり
神の代のまや雲のうられ心都のそも今初霞むらん
鎌倉 右大臣 度會 元長

○心御柱に玉座の下に齋ひ鎮め給ふ是を天御量柱とも天御柱とも
奉れ深秘あるゆとぞ 文永二年八月十八日内宮御柱立はあがりたりは
後天久しやむら

○内宮のゆり 船延の義にて大内裏とまがぶり内宮御柱の船延とまゆ古事記
又出く御名を宇治とら内宮の義に其内宮は對して豊受と外宮といふ後世の
流言に延延成はるる會宮とま内宮御柱座の始は日本紀に天宮二十六
年十月の御宇といふとも九月十七日御宇といふ長曆とま相りやうみて沢ありん

神路山 官域のちぐり 一名丈山 天照山 宇治山 船高日ともいふ

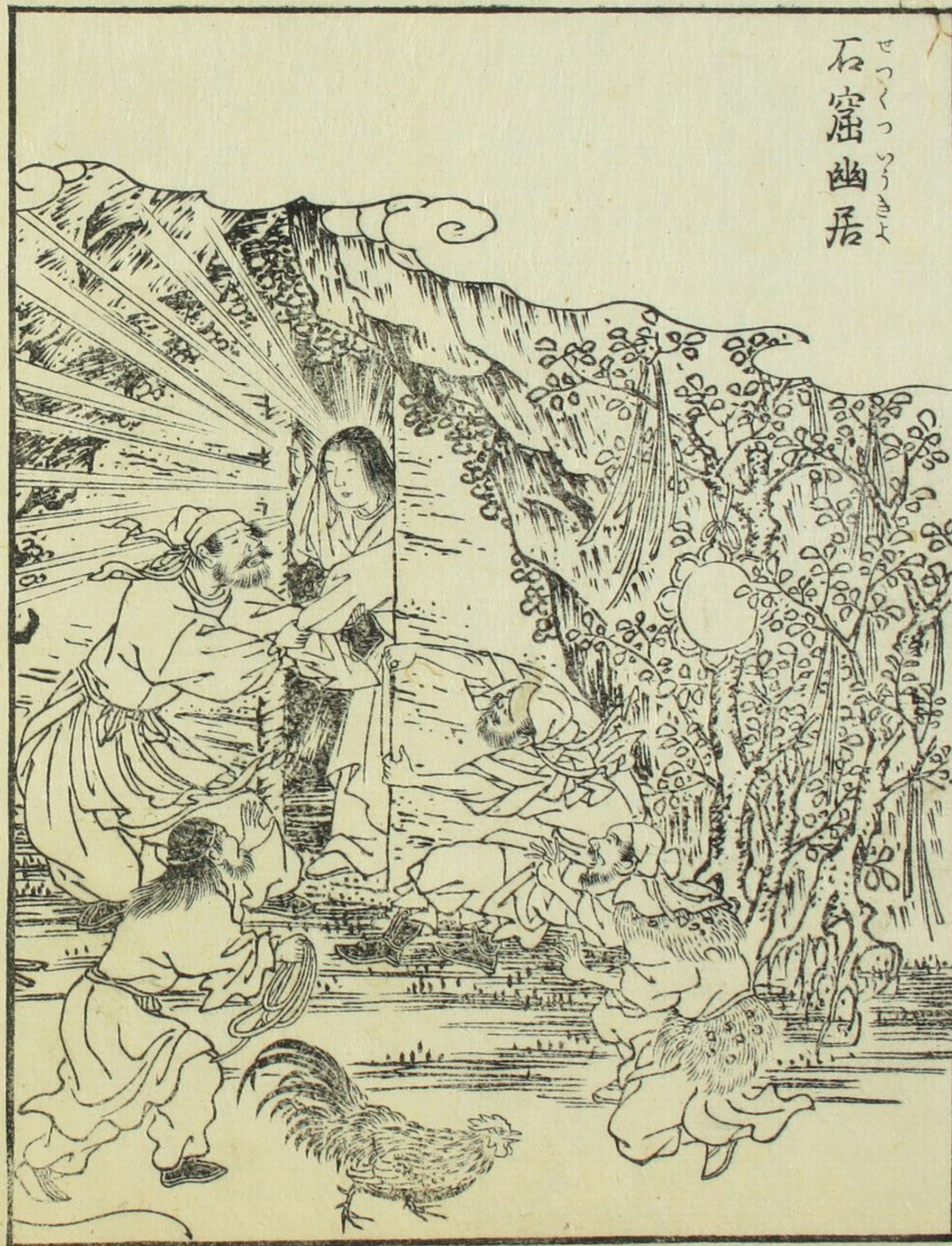
船高の日ともは天竺靈龜といふ比し 船高の船高といふはあを西行
の舟よりいひて先づなるかたぐい 船高の船高といふはあを西行
十載集圓位法師 船高の船高といふはあを西行
舟り多なる大非宮の御宇を非神路といふは天日如來の御宇に於ては
ふく入く神路の舟を舟といふはあを西行

かじはくそむらんまでもとるれよ天照とれ杖の夜乃月

百枝松 内宮御柱本末て神路といふとも
西の上人の御宇に於ては其御宇に於ては
後波もいふともその川の末なれや志門を成りけよ松の百枝よ 俊成

東宝殿 西宝殿 正殿の東西あり ○宿衛殿 本宮の傍に宿衛あり

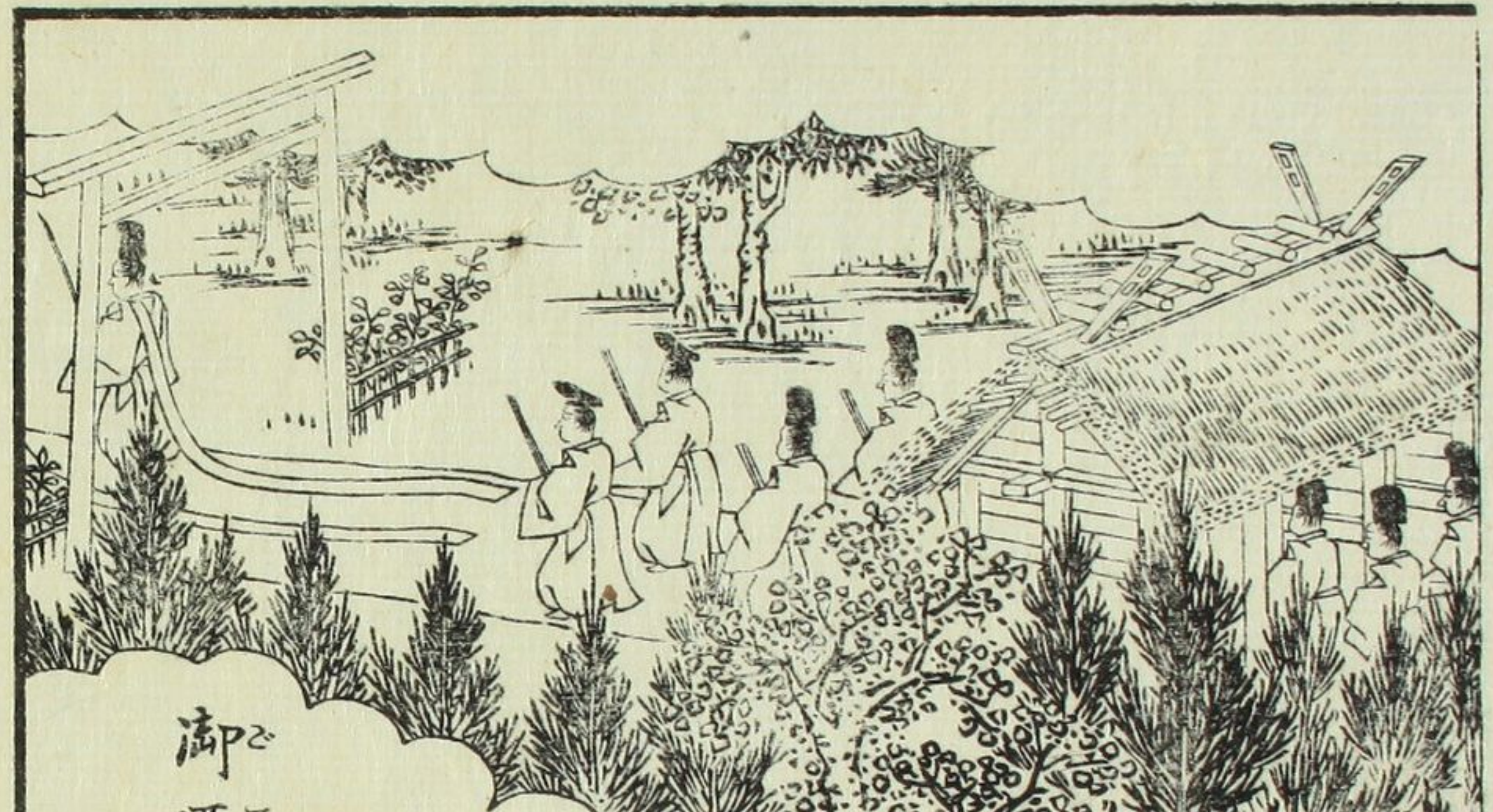
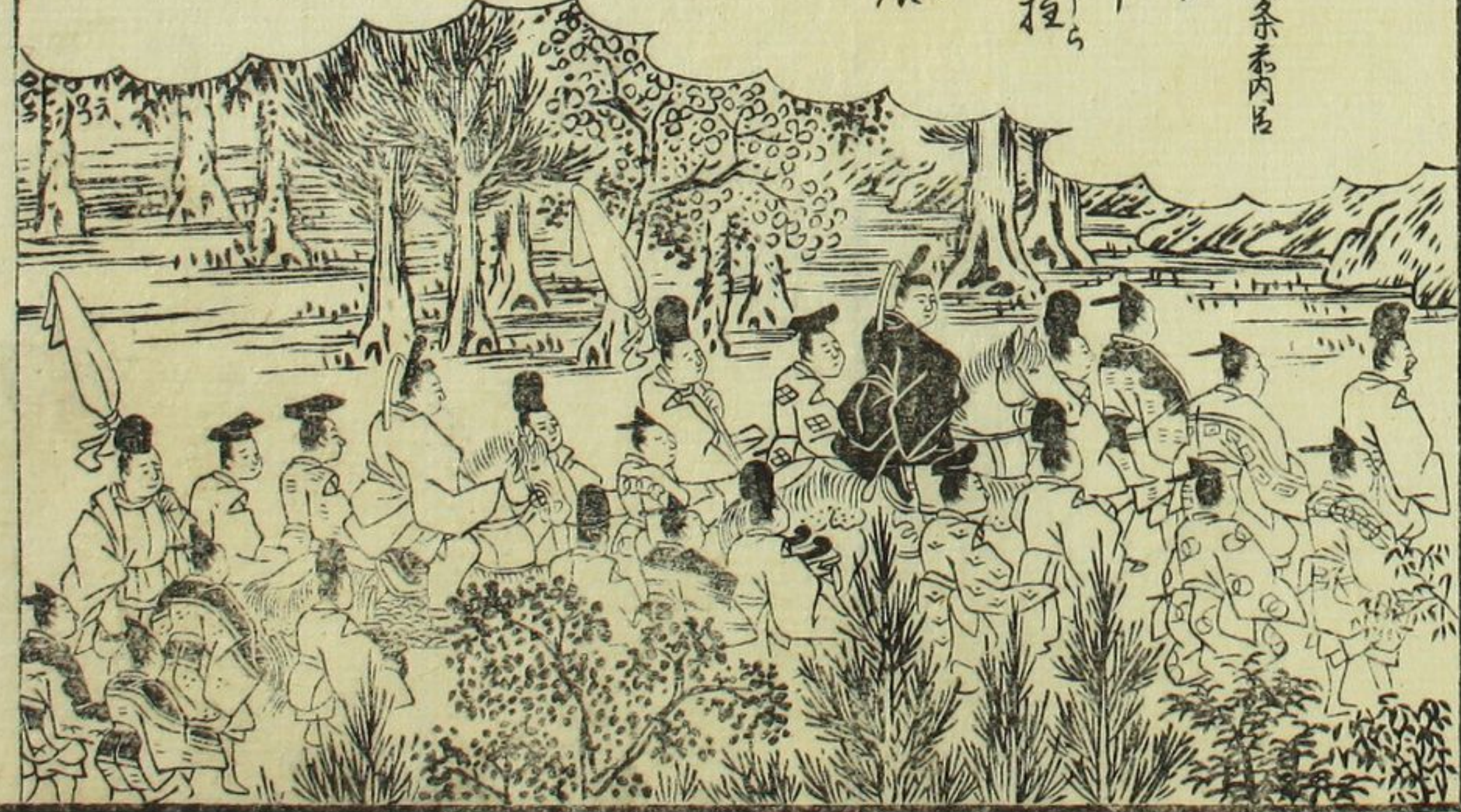
- 一 村澤神社 本宮の傍に村澤氏命武外 郡三波村あり
- 二 多伎原神社 本宮の傍に多伎氏命あり
- 三 檮木力自神社 本宮の傍に檮木力自命あり
- 四 櫛田神社 本宮の傍に櫛田氏命あり
- 五 大山抵神社 本宮の傍に大山抵命あり
- 六 川原神社 本宮の傍に川原氏命あり
- 七 倭姫神社 本宮の傍に倭姫命あり



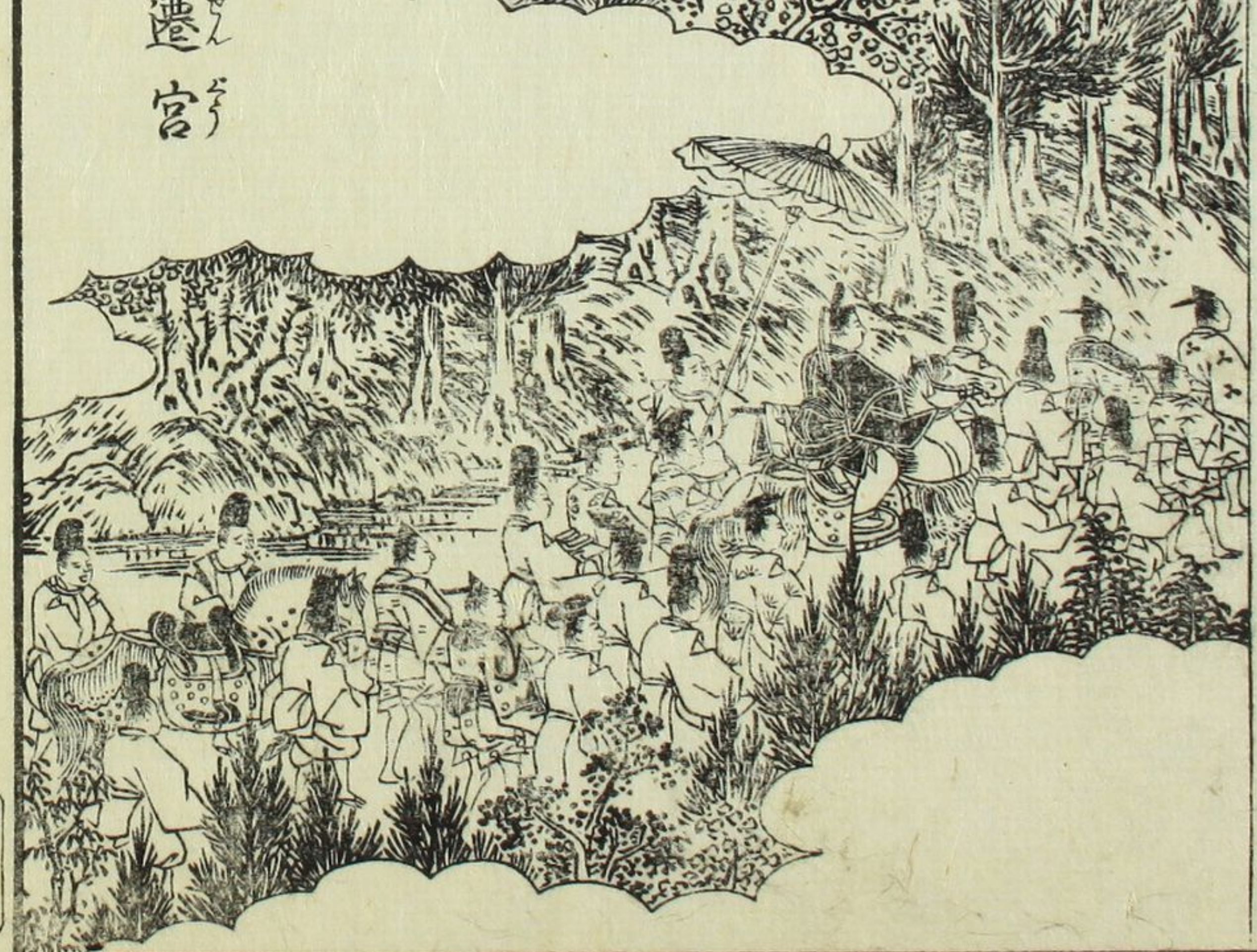
石窟幽居
せつくつゆうきよ

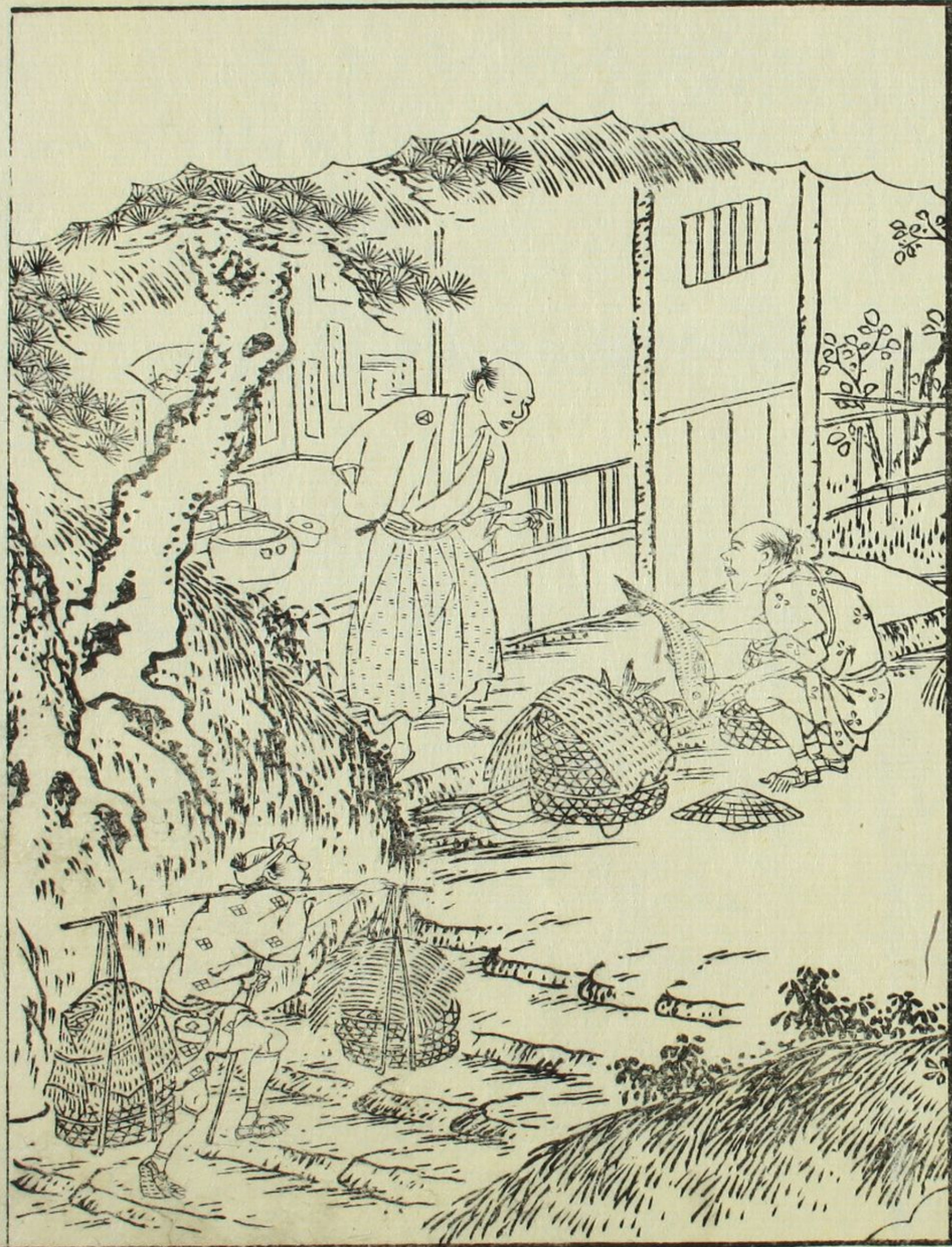


新後拾遺
 後三条系内臣
 此國其討を見
 闕一ふはわが
 してき方人の國を
 摸りてはるま柱撰
 園記をまうつ
 として藏者の教本
 つきてを改む尚
 後日の改刻
 云々



御遷宮





御贄小屋



の式をいづむ獨吟のみ白中百首の狂言あり宇治のやと群衆の生草松竹あり

船負りくふまふんゆらん我女ら

神路に我さかきも好と急もそのまの風く

天文十八年八月九日

元日や津代のこころも押もり

一孫直守武

△内宮系指終て是より南條雜宮より船懸のありより二見より川橋辺りとの

河勢小な 大宮の右の方より小なあり破辺の邊り川橋へ持出る魚舟の妙獲

を此に納む外宮河勢柳に

一の瀬 これの内宮より破辺村より破辺村とあまこの川とまを流す神とて一の瀬とま

三方石 三方石ありありの川の川より九一六に方もあると石のま中より一掃の板をい

板坂 内宮より先まで一星の川より三に町をり川とまを流す神とて二丈をりあり

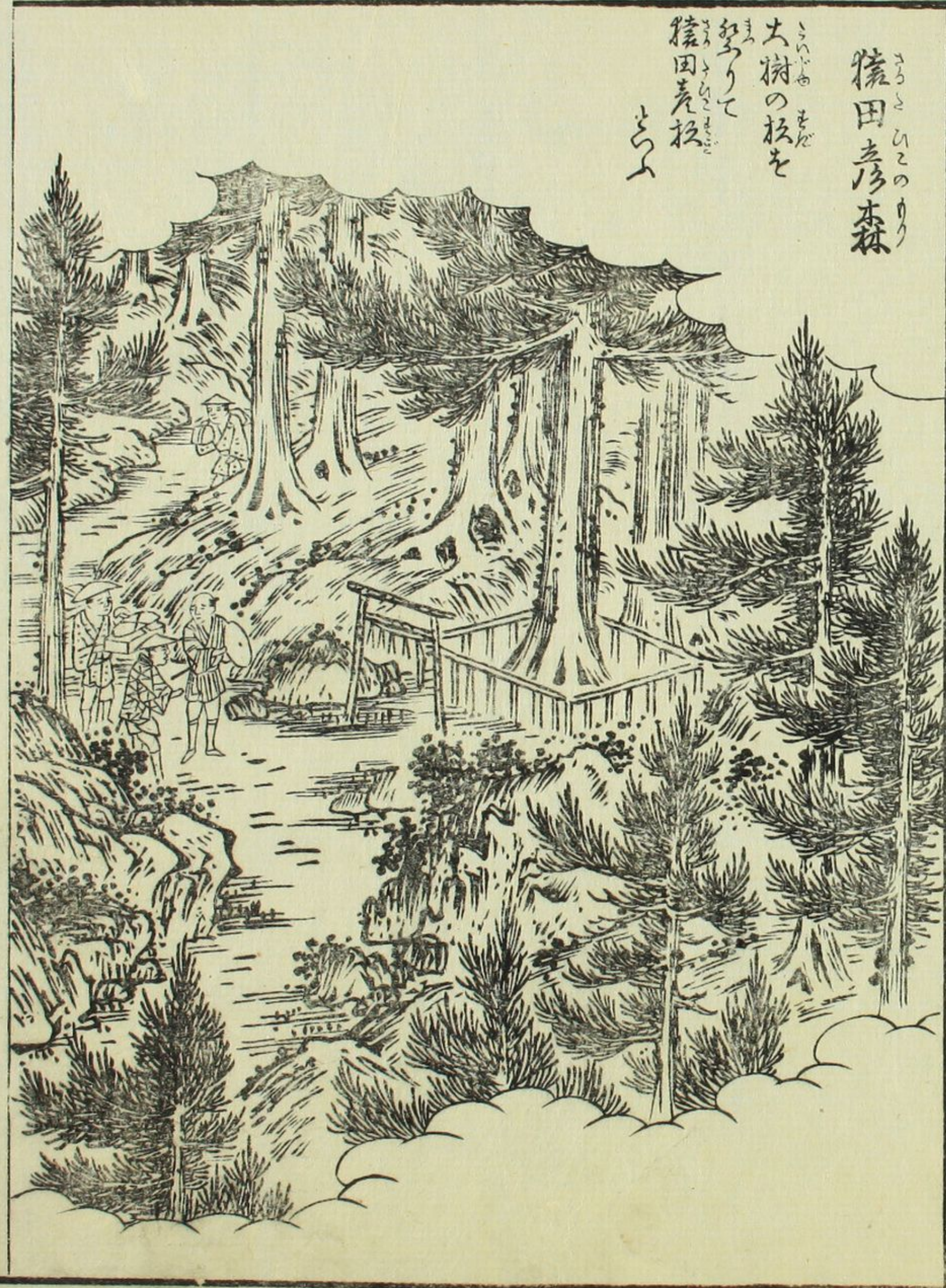
又其とて 長尾 板坂より七町長の方へ此の川とまを流す神とて二丈をりあり

又其とて 船留石 船留石ありありの川の川より九一六に方もあると石のま中より一掃の板をい

又其とて 獅子鼻石 獅子鼻石ありありの川の川より九一六に方もあると石のま中より一掃の板をい

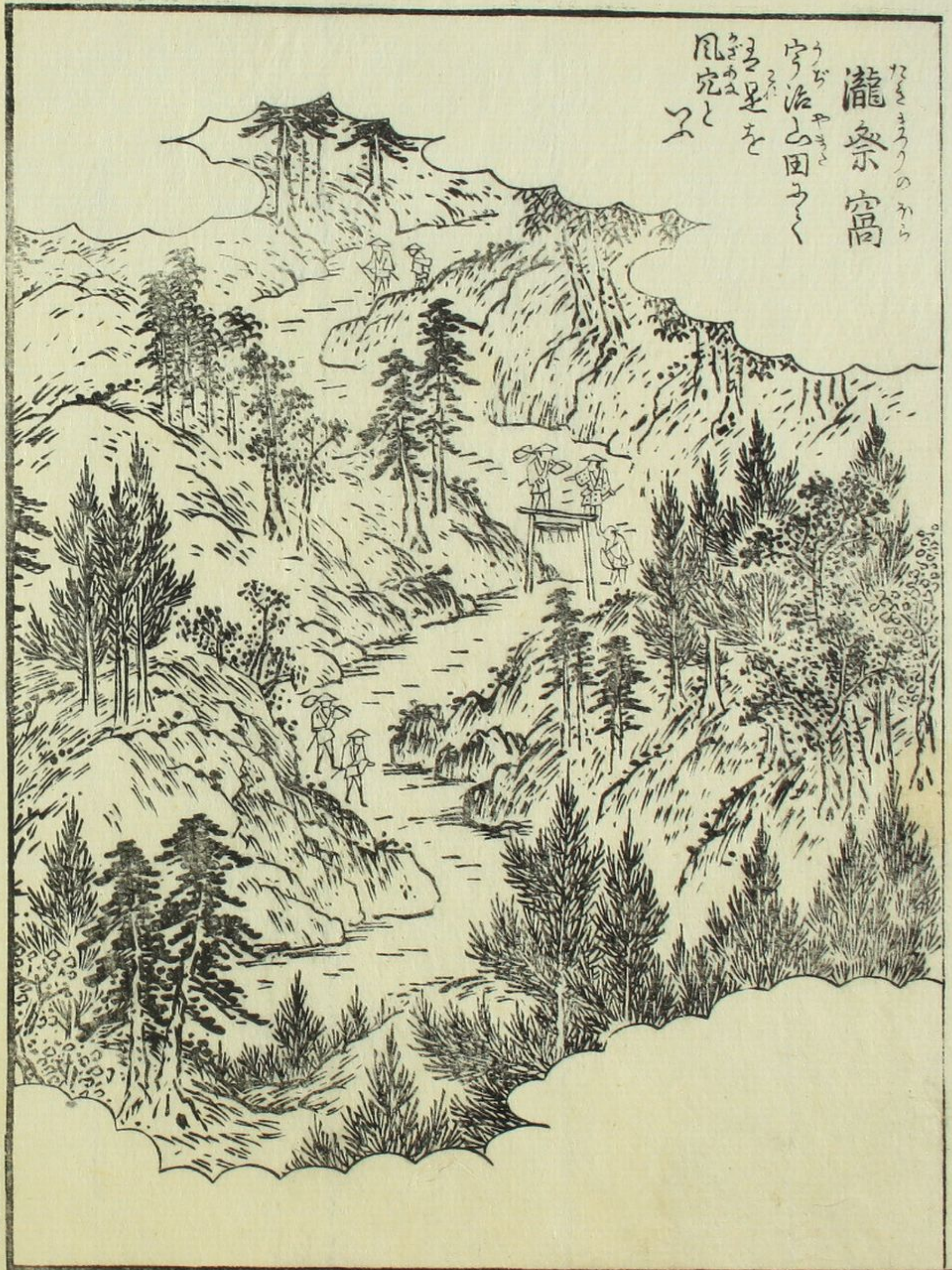
猿田彦彦森

大樹の板を
猿田彦彦板
とらふ





たまきりのから
瀧奈高
 うがやま
 宇治の田うく
 星を
 風穴と
 上



合坂 板坂より又十町宛に北斎堂ありて是勢及志良の標也
此不後田茂之伴儀願令よ出合し一合坂とらひ池よとせ
後田茂森 合坂より下此森の板のそと行板みせ入り有ありと云
瀧祭空屋 合坂より下中後 茶の倉あり果より谷二町斗りて岩窟あり
の右の方よりあり

其穴より入り九十間ばかりて瀧あり瀧祭空寓と標石を立てり

家立茶屋 合坂より下此不後田村御所より系宮人を出逢ふ不たなり

甌石 十余町あり 此石一石の右なり大晦日の夜湯気立といひ此より

甌石 下る谷あり 甌石古神と標石を携る石離あり是古神宮の地と考す

移ひ一不と云私田甲草より石鼎と云て山人の器用と云龍頭家腹詩有

巧匠 蜀山骨割中裏煎京直柄未當権塞口自舌聲 下畧

宮川 此名いづきの附よりいかりいさやまといふ

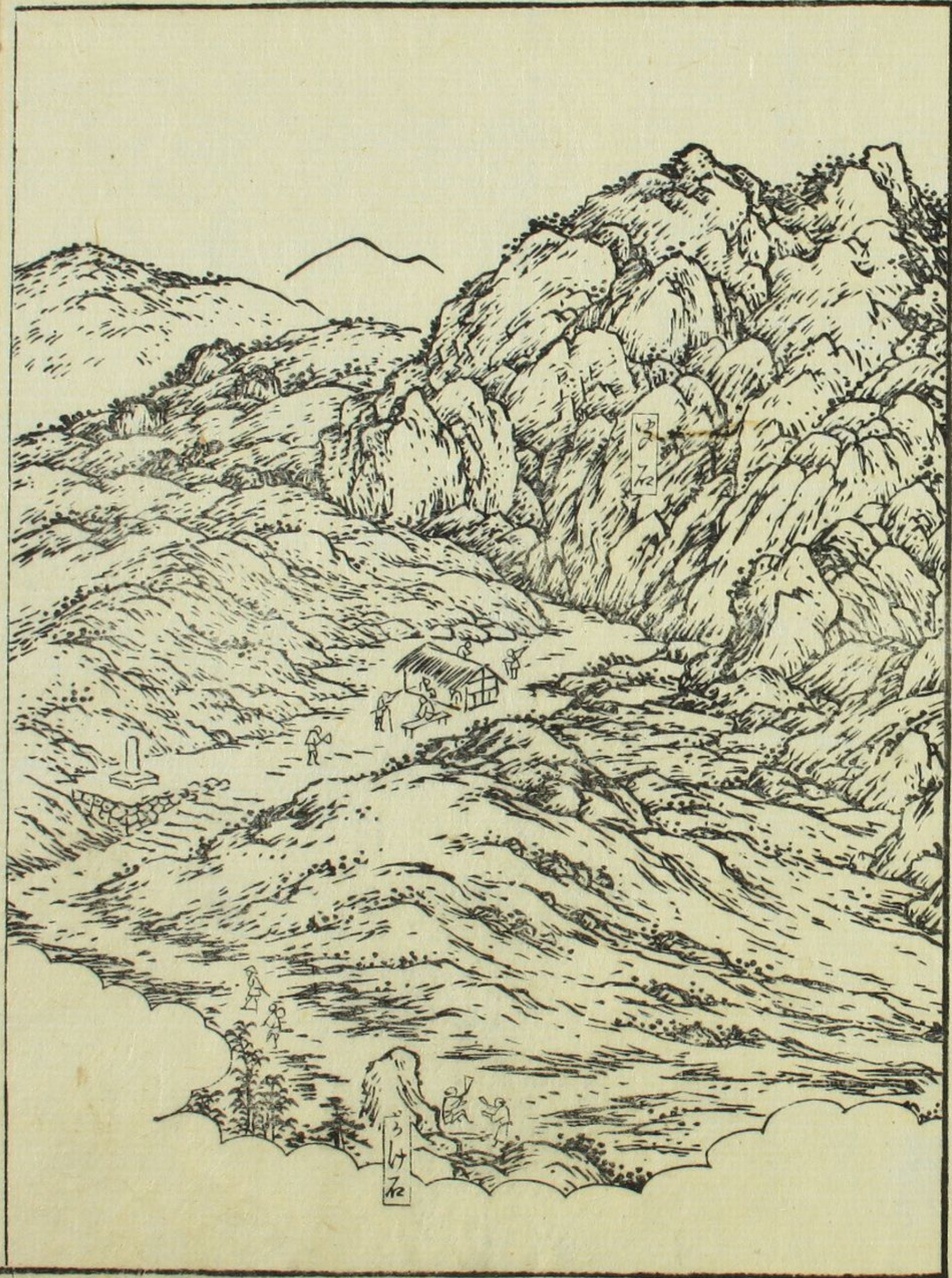
鷓鴣石 是を和合山と云街道分三町 高十七間物の音又音より石の抽いんが

おとす 其音をばあありと云と云石と云音をばあありと云石と云此外
と云と云石編かけ松と云と云あり尚園上と云と云

家立茶屋



後田茂大伴此地を同じ
家立茶屋の地
ゆへに家立の茶屋と
いふと表の戸
一枚のむろと
ひいて今
改めどか
竈の向あり
石三ツの
と云み
谷を
と云らう
と云らう
あに佛と
と云らう
と云らう
性必書いなるめは
式人のより
後田茂の地
と云らう



あふむせき
鸚鵡石 中名和合山

きく石の遠く
 石碑あり

うぐいしとや内外よ

まうたふむ石

京都大浴

合歡堂

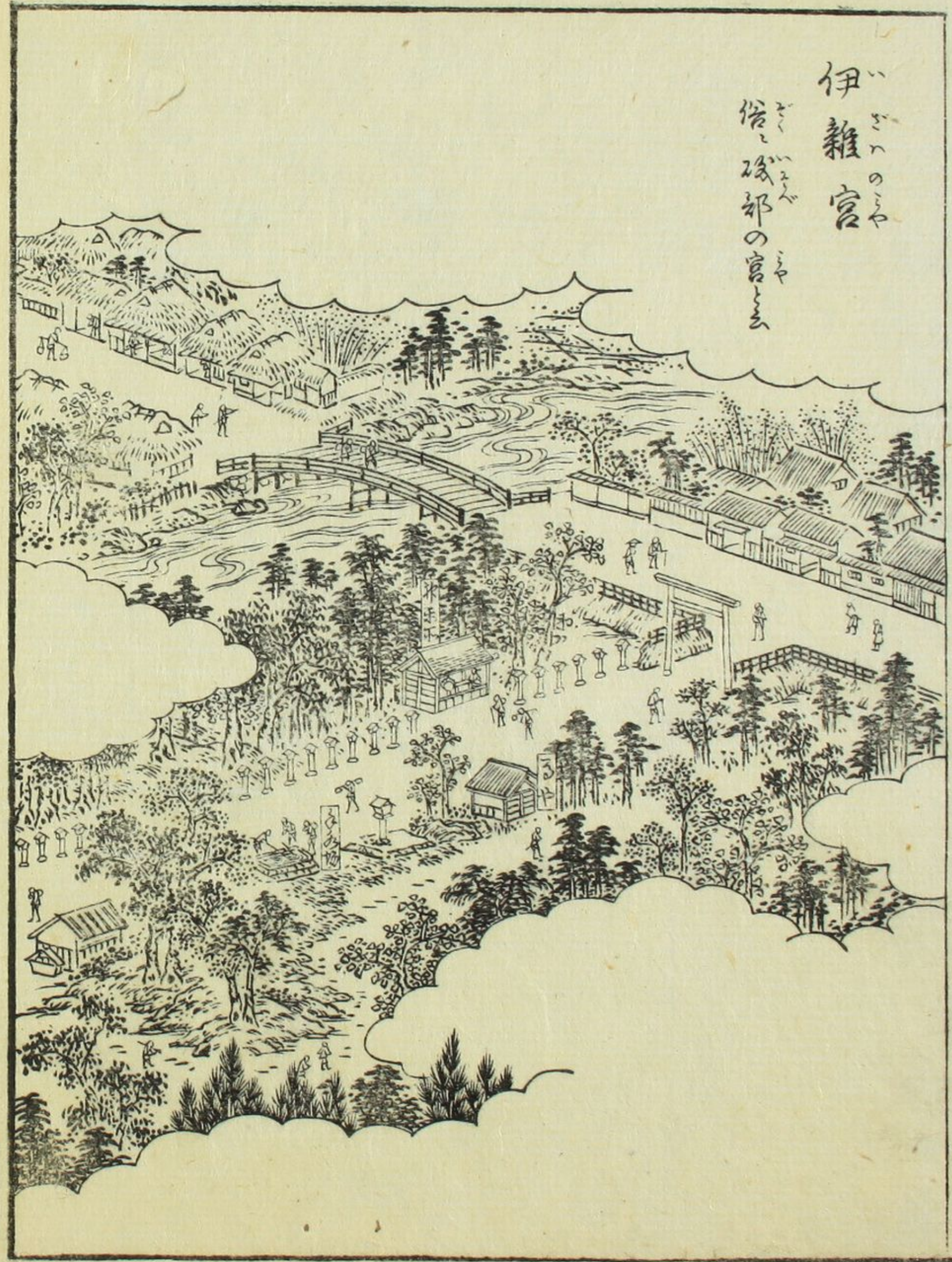
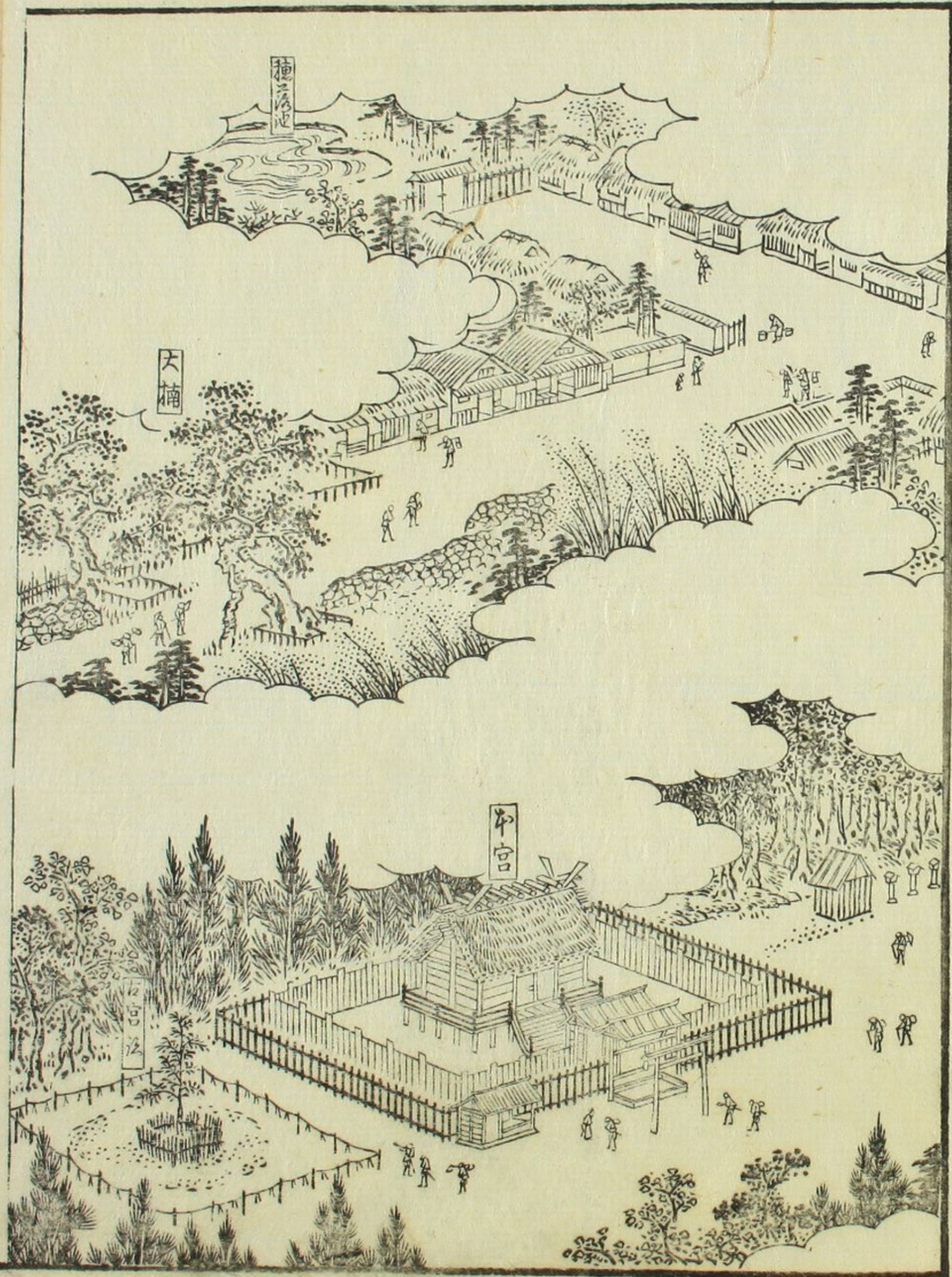
不言

このへ
 け石此淋

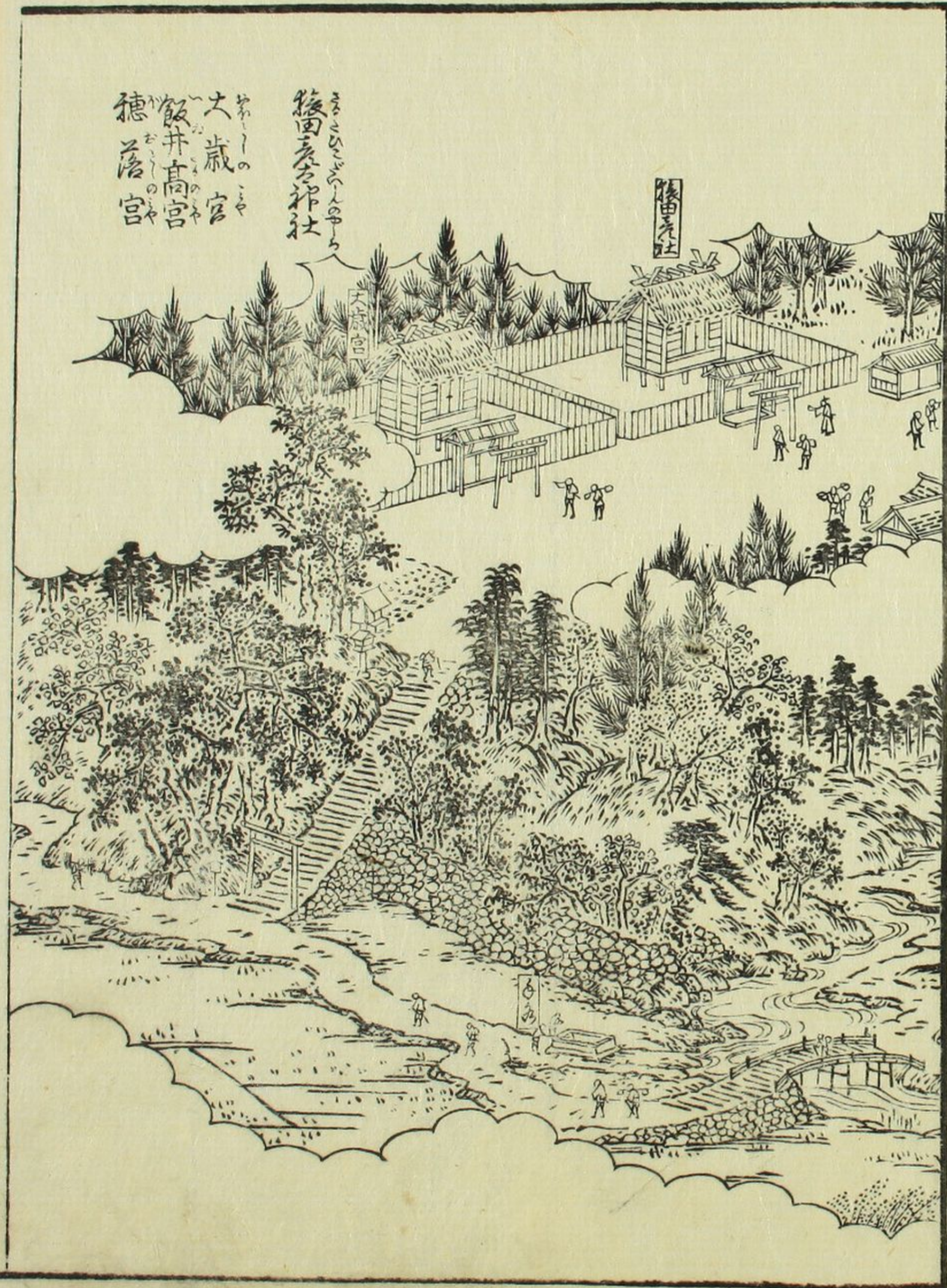
阿ん秋の亭

天柱弁

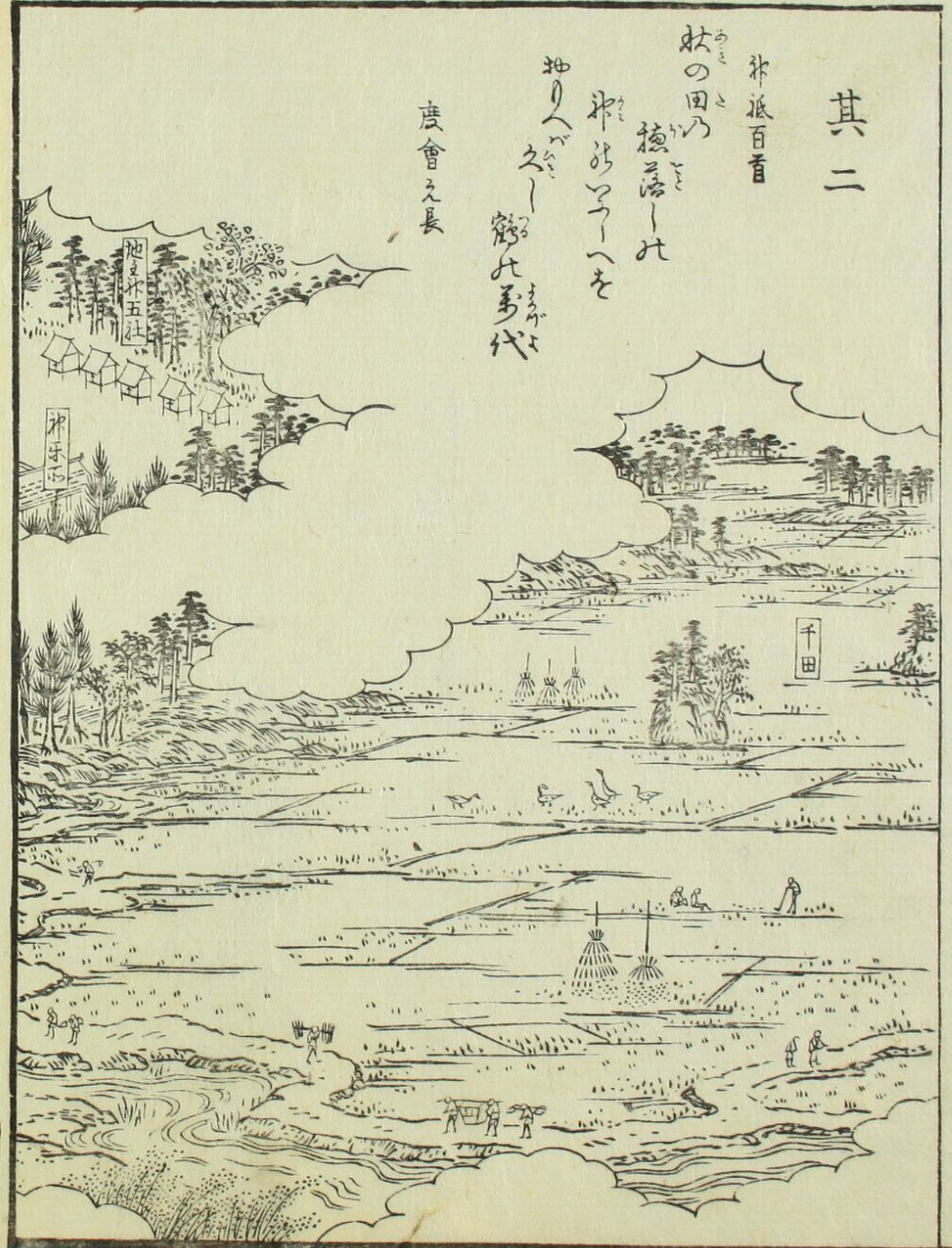
仲書



伊雑宮
 信濃郡の宮と云



後園神社
大歳宮
飯井高宮
徳三宮



其二
井原百首
杖の田
徳三宮
池田五社
千田
度會え長



所名

惠利原 ○本郷村 惠利系村が又上村とも此石又新熊名村へのあり

伊雑宮 内宮別宮の其一内宮の三三三 伊雑宮 伊雑村のあり俗に破辺村といふ 伊雑宮 伊雑村のあり俗に破辺村といふ 伊雑宮 伊雑村のあり俗に破辺村といふ

大歳宮 式内破辺の高宮といふ種落の宮とも云々 伊雑宮 伊雑村のあり俗に破辺村といふ 伊雑宮 伊雑村のあり俗に破辺村といふ

飯井高社 伊雑村後田彦大社と此外飯井高社あり 伊雑宮 伊雑村のあり俗に破辺村といふ 伊雑宮 伊雑村のあり俗に破辺村といふ

御田宮 南にあり又月上旬吉日を撰て回柱執事 伊雑宮 伊雑村のあり俗に破辺村といふ 伊雑宮 伊雑村のあり俗に破辺村といふ

楠部嶺 宇治六十町 此石より九下と二八なる楠部村あり 伊雑宮 伊雑村のあり俗に破辺村といふ 伊雑宮 伊雑村のあり俗に破辺村といふ

所名

朝熊山嶽 内宮より八十町一宇田原より九町茶

新ひてあといく世母よりぬらん波よりれり新熊の之

系諸記云寺を一新して新熊の宮とすなりぬ此石と倭姫皇女御とありありく毎月

○万金丹 世間茶屋よりいけ祖の尾張野内海より出りこれがかく

所名

勝峯山金剛證寺兜率院

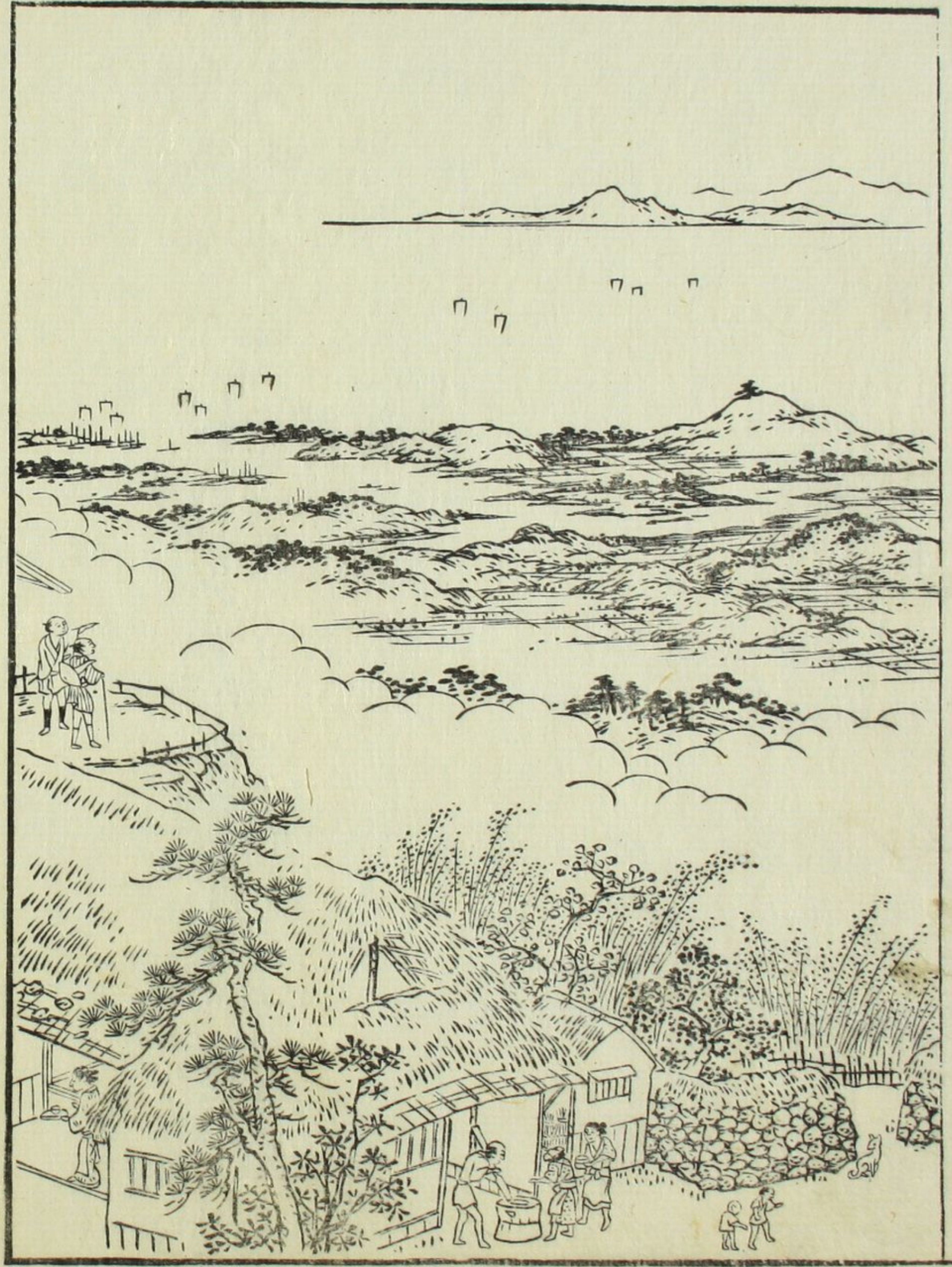
○本堂 九間 本尊 虚空藏菩薩 ○佛牙舍利塔 本尊の右にあり

義朝の佩刀の奇物あり

郡會度州勢

廿九四

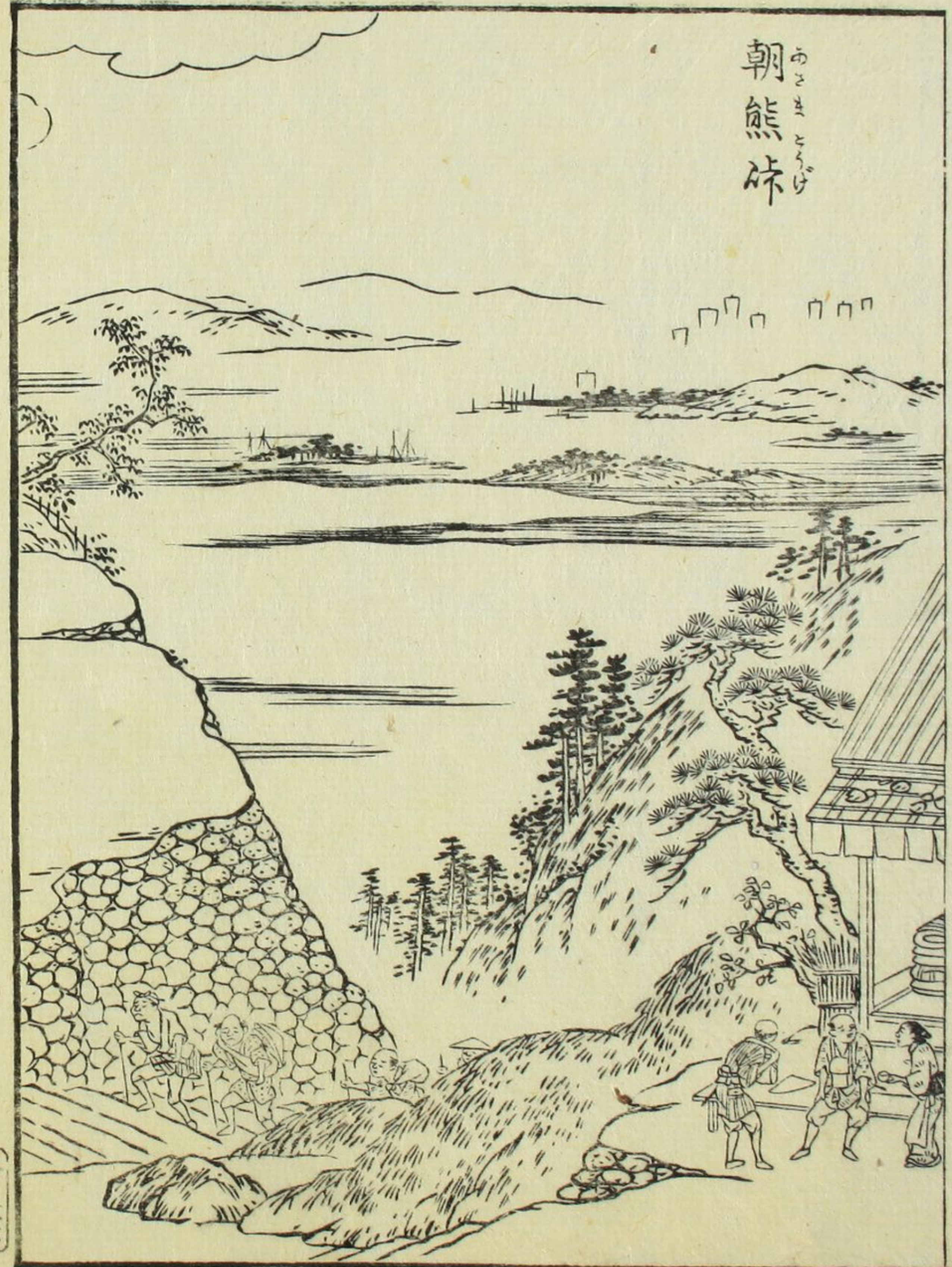
楠部くまべ休やすみ



五ノ九五



五七
 右林宮御詠
 一も我ま
 船然のそ氏岳
 人のうういと
 五七
 五十鈴川
 五



朝熊砦
 朝熊砦

蘇の基盤は秋田城を以て其の基盤と画して其制巧なり但し車輪の基盤と
 なるに於ては其の基盤の盤方より其の基盤と画して其の制巧なり但し車輪の基盤と
 ○求開坊寺 又これを明皇寺と云ふ其の僧安実の虚名を以ては其の基盤と云ふ
 ○文殊堂 求開坊の楹其の基盤を以ては其の基盤と云ふ
 ○熊野三社宮 ○安地蔵堂 青の板を以ては其の基盤と云ふ
 ○阿弥陀寺 ○二王門 往古此門は勝峯山の額を以ては其の基盤と云ふ
 ○連珠橋 往古此門は勝峯山の額を以ては其の基盤と云ふ
 ○法王の池 堅十間より十六間許の池に二王門の形あり
 ○通ひたれ法よしの橋のたれ 勢陽雜記天照太神の御説也

○兩字童子宮 池のたれあり
 ○明星水 二間に面の
 ○手向地藏 明星水と吾海庵の
 ○經ヶ峯 胡鉄岳の
 ○龍池 六月一日の外人の
 ○明王院 三言宗不勅明王護摩寺なり
 ○三基院 二王門の形ありて
 ○隨泉院 九間あり
 ○与樂院 ○交追地藏 赤木の宝珠
 ○吾海庵 本尊地藏菩薩 俗は奥の院といふ此之金剛院の奥の院に一里あり
 ○藥師堂 吾海庵の
 ○涅槃塚 ○芭蕉公羽の塚
 ○稻荷社 ○舍利堂 毎多八月廿三日供養あり
 ○開山堂 ○東岳和尚
 ○七社神 毎多正月廿八日又開帳あり
 ○石城山永松庵 胡鉄村
 ○後空巖深空大居士 万治二年己亥十一月廿九日 安部実季入道と記す是は今奥の杖

又あの付いとれあるぬらもいとあやうき心も言も及ぶね
 ○藥師堂 吾海庵の
 ○涅槃塚 ○芭蕉公羽の塚
 杖の池(非宮)あり

杖の池(非宮)あり
 ○稻荷社 ○舍利堂 毎多八月廿三日供養あり
 ○開山堂 ○東岳和尚
 ○七社神 毎多正月廿八日又開帳あり
 ○石城山永松庵 胡鉄村
 ○後空巖深空大居士 万治二年己亥十一月廿九日 安部実季入道と記す是は今奥の杖

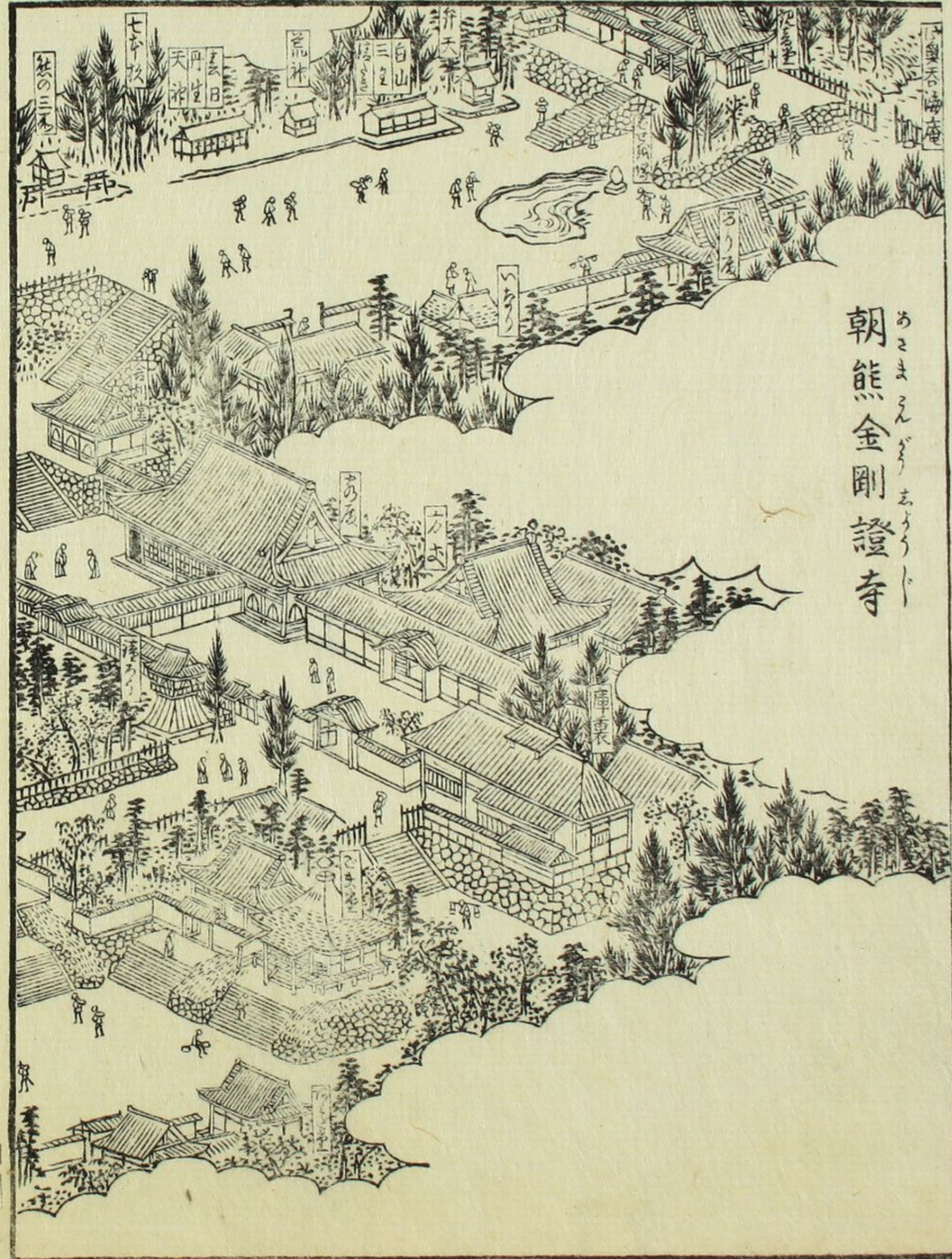
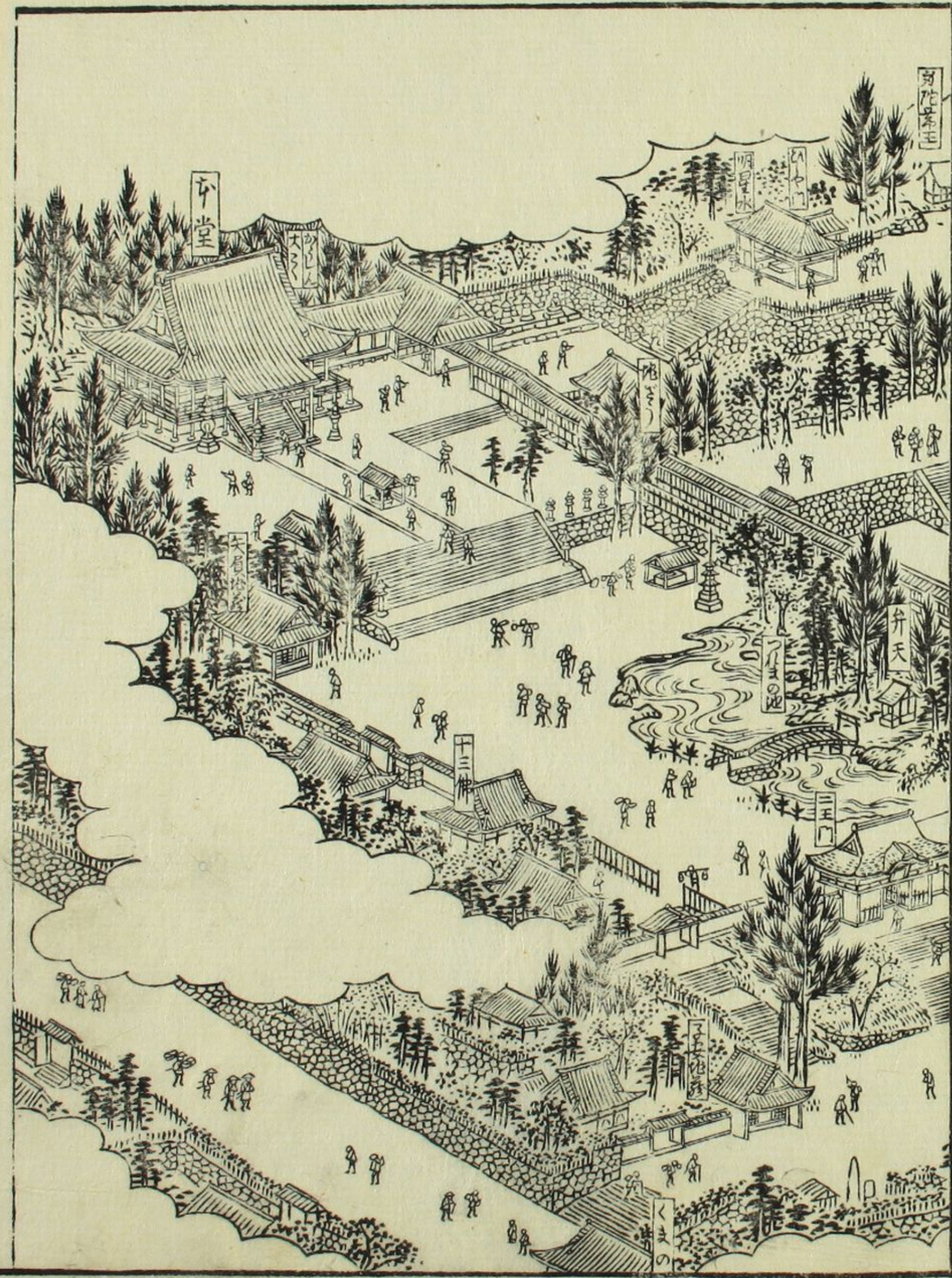
又あの付いとれあるぬらもいとあやうき心も言も及ぶね
 ○藥師堂 吾海庵の
 ○涅槃塚 ○芭蕉公羽の塚
 杖の池(非宮)あり
 ○稻荷社 ○舍利堂 毎多八月廿三日供養あり
 ○開山堂 ○東岳和尚
 ○七社神 毎多正月廿八日又開帳あり
 ○石城山永松庵 胡鉄村
 ○後空巖深空大居士 万治二年己亥十一月廿九日 安部実季入道と記す是は今奥の杖

朝熊奥
吾海庵
富士見臺

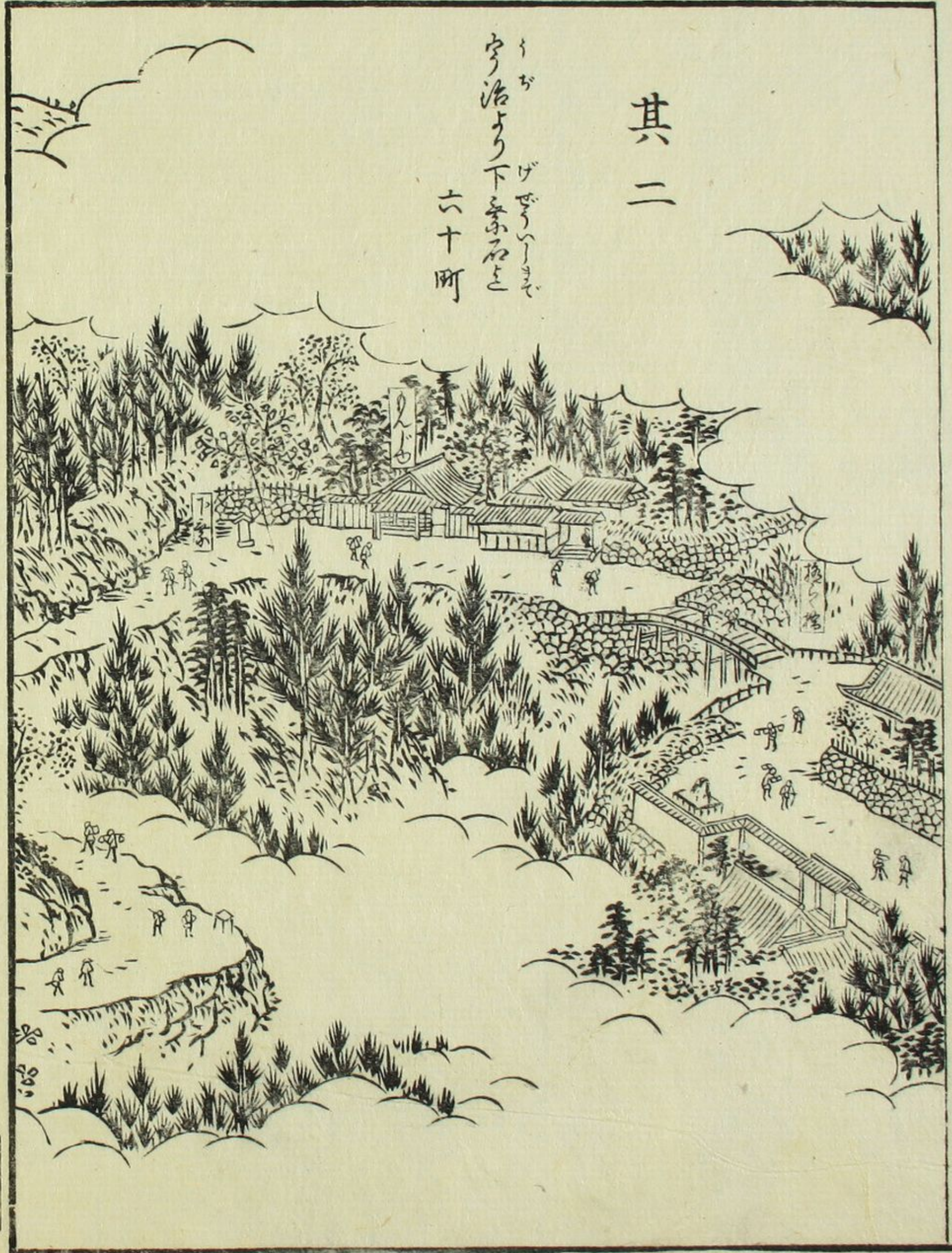
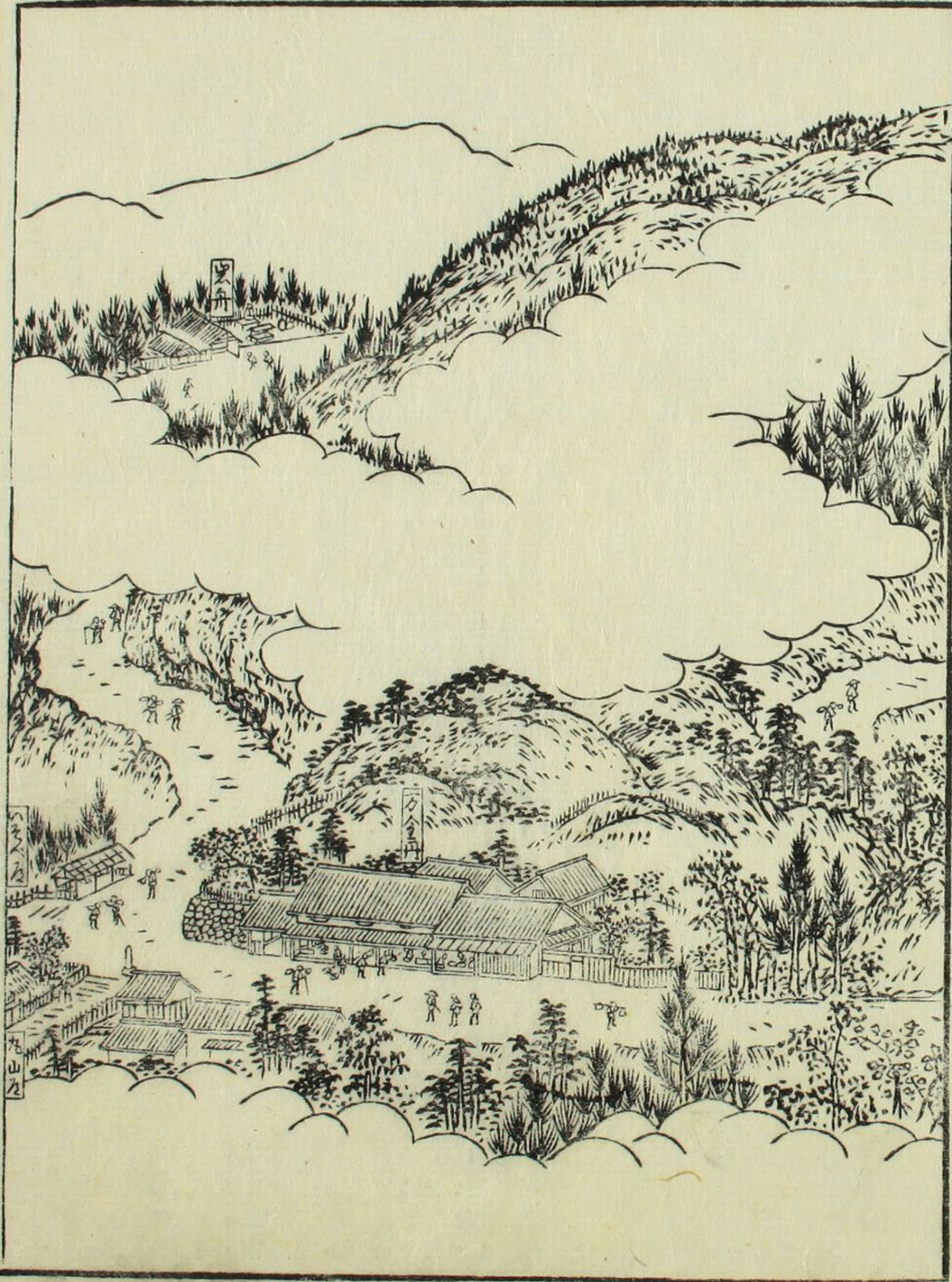


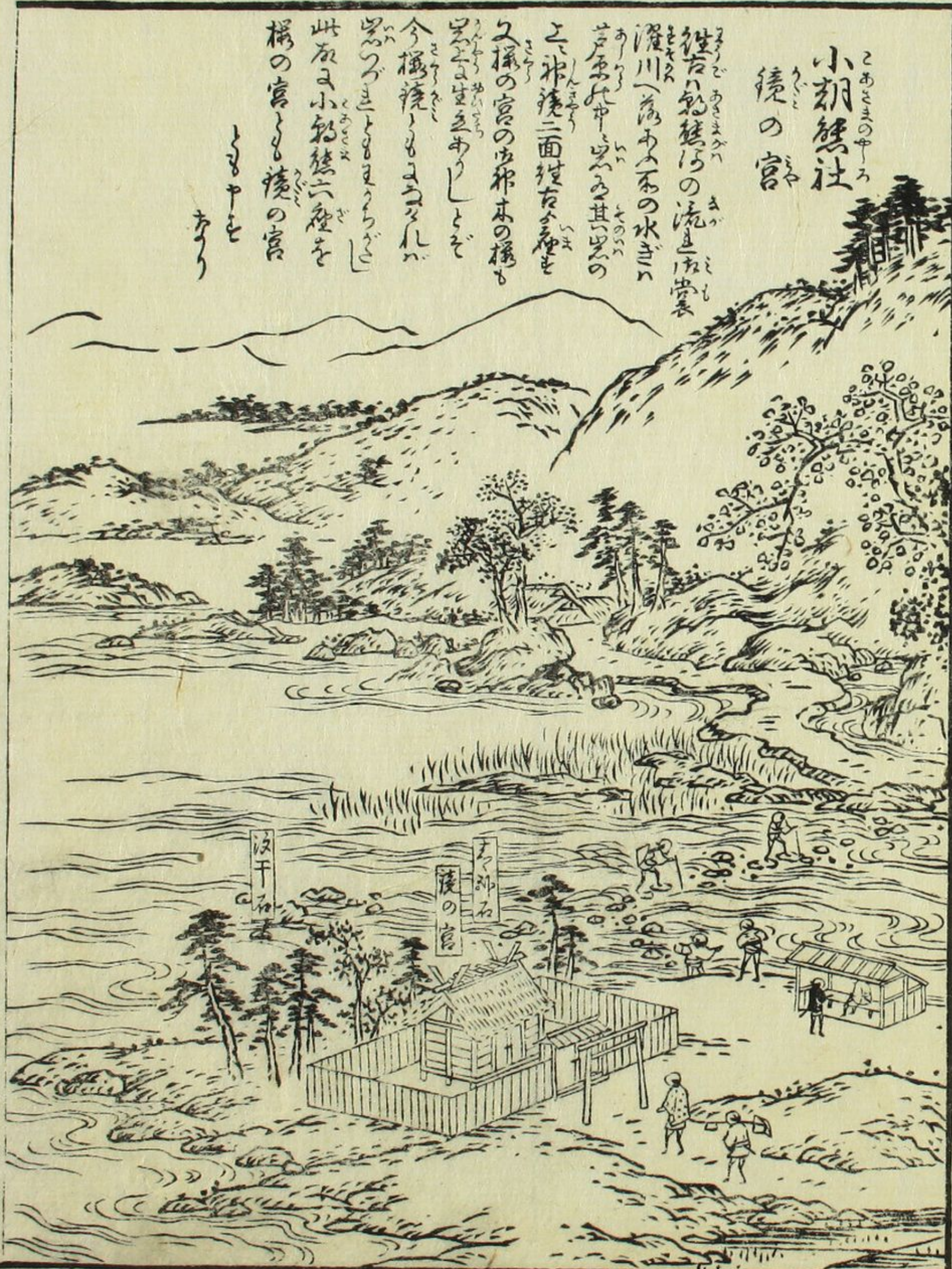
曾聞人說思重、
吾海庵前望士峯
四十由旬半空雲
雲間一朵玉芙蓉
村庵





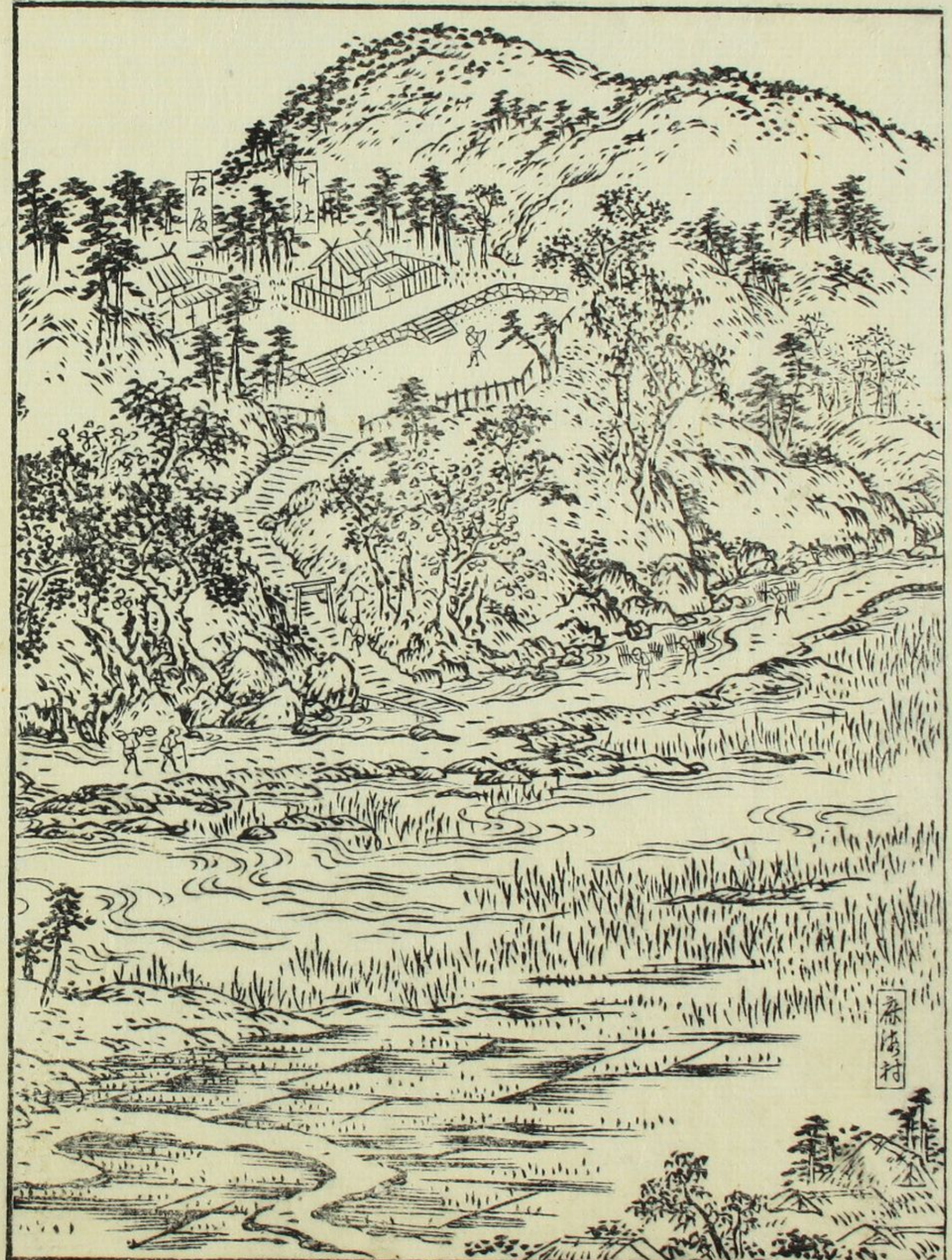
朝熊金剛證寺
あまねんぎょうじ





小朝徳社
後の宮

此の山の中
往古に朝徳の流し
澄川（高木）の水
今極後にも
此の山に小朝徳二座を
橋の宮とも後の宮



藤村



歌石
 信濃三津村夜會歌次が
 本家信濃の香りと傳へし
 此の曲は著地せし
 歌石も二尺をま家次
 と尺を其実吾も
 去るれども法園一尺
 の途に振起してやど
 蕨生し日向發しや
 石の縁に引て我子幸南
 丸まぐりあひ且地々の
 物ごころをこゝろに
 りん入信勢や日向の
 子信ともうね
 五ノ世三



二見三津

所名

鷺島

一二所程の碇の島。○やどりが碇石の方

○御座石 碇石の西の

○丸山 あり

俵勢三郎義盛宅地

三津村より

山の林麓に白水仙院とあり寺の竹林に

義盛が在り江村の産物に對して後園を築きたり嘗て姑法を殺して罪よりて之を
獄に送らるるに及んで上野の荒蕪に墮んで劫盜を以て生業と爲し義經奥ゆぐに於て
義經が在り義盛が在り義盛が在り義盛が在り義盛が在り義盛が在り義盛が在り義盛が在り
義經希平年久遠討の事系師より三郎を以て先陣と爲し西國八幡壇の浦にも軍功
あり守邊首義經俊を籠りてこれを拒んで於藤原の義經に討たれり○碇石山後
あり俵勢三郎が碇石の若き時其の父に面を以て
申すやうに其の父の老に水なまらて早舟に下りたり○とさう岩中のやうな名とて碇石
立石 碇石の碇の村 此とさうり河邊殿へ移りたりあり
御座石の碇の村 此とさうり河邊殿へ移りたりあり

堅回社

堅回社 碇石の境内にあり

内之云云系社二層速方堅回社大倭姫皇女とてとも未詳

音無山 此名不詳

所名

鷺島

一二所程の碇の島。○やどりが碇石の方

○御座石 碇石の西の

○丸山 あり

俵勢三郎義盛宅地

三津村より

山の林麓に白水仙院とあり寺の竹林に

義盛が在り江村の産物に對して後園を築きたり嘗て姑法を殺して罪よりて之を
獄に送らるるに及んで上野の荒蕪に墮んで劫盜を以て生業と爲し義經奥ゆぐに於て
義經が在り義盛が在り義盛が在り義盛が在り義盛が在り義盛が在り義盛が在り義盛が在り
義經希平年久遠討の事系師より三郎を以て先陣と爲し西國八幡壇の浦にも軍功
あり守邊首義經俊を籠りてこれを拒んで於藤原の義經に討たれり○碇石山後
あり俵勢三郎が碇石の若き時其の父に面を以て
申すやうに其の父の老に水なまらて早舟に下りたり○とさう岩中のやうな名とて碇石
立石 碇石の碇の村 此とさうり河邊殿へ移りたりあり
御座石の碇の村 此とさうり河邊殿へ移りたりあり

堅回社

堅回社 碇石の境内にあり

内之云云系社二層速方堅回社大倭姫皇女とてとも未詳

音無山 此名不詳

所名

二見の青森の鴨長明が俵勢記

二見の青森とて人々のかりて遠く海に及びる東の三河遠に強はるるを
見馴て富士の山のうらみ色良みあつて甲斐の白根信濃のこころあり小
又美濃尾張のこころあり加賀の白山の乾も多度のふれ麻の三つ又
山西は布引山といふ山俵勢園のこころも名もあつた南の鶴山志摩園の方
細熊川を隔て登川の横根といふあり其山の西のこころに鏡の宮持とて
海山も遠く見えてはるるなり云々云々西の法師の住居といふ安曇山といふ高ふかきより即
長明のかりし附も西の法師の住居の安曇山といふ高ふかきより即
ありともあつてのかりするといふことありついで此の巻室とてさるるこころあり

松やろぬ風やじの風をうぬいさけ杖の音かゝの山

大夫松 又俵勢三郎が櫻掛松といふ山 廻船の目取といふ
長が城路のありを大夫松の名あり
○是より二見浦立石濱といふり浦を一但一是を碇石の列といふかゝ
こゝより省く其の碇石の列といふ川をさるより碇石を出ると浦と碇石といふ

大夫松

大夫松 又俵勢三郎が櫻掛松といふ山 廻船の目取といふ
長が城路のありを大夫松の名あり



八世
 伴路三郎義徳
 見一々
 後を
 繋ぐ

これを傳せりといふ

○山田より二尺の順路

河崎 沖田村乾之山田より二尺五石と三里 此地毎日魚市あり民屋廣く甚賑

作勢躍河崎音乾と云ふ
實は勝田郡の使と云ふ

○河邊里 河崎の

地名不詳

とむ人やうれいまくら集らん河邊の里は飛ぶ雲う那

荒木田 尚長

二軒茶屋 河崎の裡邊より茶屋あり又山田吹上町より小茶坊を経て實はあるもあ

黒瀬 二軒茶屋を 右の森の内は社あり此村の氏神は櫛諸見公を祀ると云

常柑子 宮の傍にあり南都興福寺の橘と同種なり其実をて小之 傳云昔真福寺の橘

毎多天子一貢する小此実を求めて代りになりたる計下されり於て

と云ふところの作勢は其人和はまことたより嬌くそ花柑子哉

按るに竹竿の湯りたりと云ふ此方の善高僧の詠にて善高の王右の傳云是此方のま
柑子瓜人の送りしうり、と云ふ傳はかりと云ふ。諸見云の母は縣女、養食宿禰三子代と云
勢の人かりたよけり宮希柑子のた然を花橘の史受かり瓜浮ひて諸見は後ゆり茶集と云
事と云ふ

聖武御製



